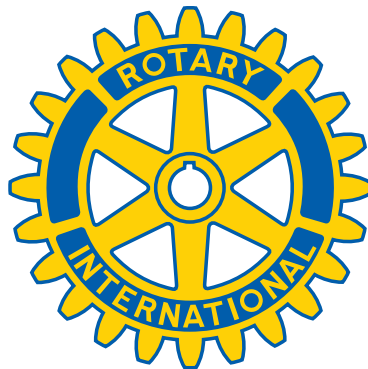


2009—2010 年度
国際ロータリー第 2510 地区
GSE 事業報告書

国際ロータリー第 2360 地区との交換事業

自 2010 年 4 月 1 日
至 2010 年 5 月 30 日



国際ロータリー第 2510 地区
GSE 委員会編集

GSE 事業報告書

目 次

メッセージ

RID2510 地区ガバナー	渡 邊 恭 久	1
RID2360 地区ガバナー	Eva Persson	2
RID2510 地区財団委員長	岩 城 秀 晴	4
RID2510 地区 GSE 委員長	沼 舘 葉	5

受入報告

RID2360 地区チームの紹介		6
受入日程表		9

受入状況報告

出迎え・オリエンテーション	トーキル・クリステンセン	10
2360 地区を出迎えて	遠 藤 友紀雄	10
歓迎会	宮 崎 善 昭	11
派遣団員との交換会	遠 藤 友紀雄	11
送別会・壮行会	石 丸 修太郎	12
反省会	石 丸 修太郎	13

コーディネーター報告

第1週 第7グループ	馬 場 信 吾	14
第2週 第1グループ	西 谷 英 樹	15
第3週 第9グループ	村 木 一 夫	15
第4週 第5グループ	犬 嶋 清 幸	16

受入感想

第1週		
ホストファミリー	加 藤 寛 治	19
ホストファミリー	瀬 川 五 水	19
第2週		
ホストファミリー	田 中 公 一	20
ホストファミリー	関 野 政 人	21
ホストファミリー	刈 馬 健 一	21
ホストファミリー	二ノ宮 清 信	22
ホストファミリー	坂 本 和 繁	23
第3週		
ホストファミリー	松 岡 健 一	24
ホストファミリー	野 村 滋	25
第4週		
IMについて	江 口 光	26
ホストファミリー	出 倉 恵 隆	27
ホストファミリー	朝 倉 正 人	28
ホストファミリー	井 上 善 博	28
ホストファミリー	石 谷 邦 彦	31

RID2360 地区チームの感想	カトリーヌ・アンダーション・リーダー	32
派遣報告		
RID2510 地区チームの紹介		33
派遣日程表		34
派遣状況報告		
チームリーダー	丸山 淳士	37
団員	羽田野 真寿美	40
団員	松本 かな	40
団員	竹内 孝	41
団員	鈴木 洋史	45
帰国報告会		
団員	羽田野 真寿美	49
団員	松本 かな	52
写真集		55

メッセージ

GSE 帰国報告書の発刊にあたり

RI 第2510地区
ガバナー 渡邊 恭久

恙なく研究グループ交換の任を終え、帰国しました丸山淳士団長をはじめ団員の皆様に「ご苦労さまでした」と申し上げます。昨年度は一昨年の整理や本年度の準備として交換事業は空きましたが、その甲斐もあって 当地区からの派遣の目的を明確に介護福祉と焦点を定めることが出来、GSE 委員会においても調査や意見集約など十分な準備のもと、先進国のスウェーデンと交換することを2008年に確定をしたことであります。

2009年1月 地区 GSE 委員会と RI2360地区との打ち合わせ通り、サンティアゴの国際協議会の会期中に、相手地区のエバ・パースンガバナーエレクトと幾度かお会いし、日程や希望を申し上げ握手を交わした、あれがスタートだったと今、懐かしく思い起こしております。

GSE 事業は申すまでもなく 国際親善、理解そして職業をベースに交流しながら相手国の仕事と自らの仕事を比べ、仕事の情報や手順のヒントを得、仕事と社会の関連を確認し、自己の職業観などを確立するとてもいいチャンスであり、更なるホームステイは、相手国の文化を体感し、そして知り、それを尊重するいい体験であります。

この体験は、団員にとって大きな財産となり、皆さんの職場や地域社会、ひいては日本のため有為なリーダーを養成した事業であります。ロータリーの教育的プログラムとしては、これこそロータリーらしいものであると確信をしています。 団員の皆さんの得た収穫や感想は如何でしたでしょうか。改めて「ご苦労様でした」と申し上げます。

この事業のスタートから今日まで、GSE 委員会の沼館葉委員長はじめ委員諸兄の並々ならぬ汗とご苦労に厚く労いを申し上げ、丸山団長には、いろいろなご無理をお受けいただき、平安に日程を治めて下さいましたことに心から感謝を申し上げます。また岩城地区財団委員長には、その都度都度のご指導をいただいたことに敬意を申し上げて報告書に寄せる一文といたします。

Dear Sirs!

We would like to express our gratitude for the hospitality you showed the Swedish GSE-team during their stay in Japan.

When I met with Mr Watanabee in San Diego January 2009 he told me that there were about 60 applications (for team member) from very qualified young persons. We realize it must have been a very hard job to pick out the most qualified ones and we congratulate you for making such a good choice.

The team members were all extraordinary good. All of them were very receptive, open minded and interested in learning about the Swedish society and culture. From the very first beginning, when they arrived in Sweden, they picked up the social codes and the culture differences very quickly. It made them fit in everywhere. Sometimes we had a slight language problem but since one of the members were fluently English speaking it was rather easy to solve.

We also would like to congratulate you for choosing such a nice team leader. In our opinion he took very good care of his team. He was very humble and supportive to them and we realized he is a very good leader.

Both the team members and the team leader took part in the entire program, both vocational and social programs, with a true interest.

Therefore we thank you for sending such a good team.

Our best wishes

Eva Persson

DG 23 60 2009-2010

和訳

親愛なる皆様へ

まずは、皆様方に、私共のチームがそちらに滞在した際に賜りました御厚情につきまして心より感謝を致します。

私が 2009 年にサンディエゴで渡邊ガバナーとお会いしたとき、彼から派遣団員に 60 名もの若者が応募の期待を寄せていると聞きました。そのような中で派遣団員を選ぶということは大変なことと存じますが、見事にその責を果たされましたことお慶び申し上げます。

派遣されてこられた団員の皆さんは、本当に素晴らしい方々でした。それぞれの皆さんは、スウェーデンにおける社会事情や文化について興味をもち、心を開き学ばれていきました。スウェーデンに到着したそのときから、日本との違いを理解し受け込みました。お陰でどこでも受け入れられました。時々、言葉の障害もありましたが、団員の中で助け合いすぐに解決されました。

また、とても素敵なチームリーダーを選ばれたこと心よりお慶び申し上げます。彼は、団員の面倒を良く見たばかりではなく、謙虚に振舞いながら実によく手助けをしており、私共としては素晴らしいリーダーであったことを認めたいと思います。

団員もリーダーもすべてのプログラム、職業訓練および社交行事、について実に興味を持って

対応していただきました。

このような素晴らしいチームを送っていただけたこと心より感謝申し上げます。

心より感謝をこめて

エヴァ・パーソン

国際ロータリー2360 地区 2009-2010 ガバナー

2009-2010 年度GSE交換事業について

国際ロータリー第 2510 地区
地区財団委員長 岩城 秀晴
札幌南ロータリークラブ

研究グループ交換事業報告書の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

この研究グループ交換事業は、ロータリー財団プログラムの中で最も重要な位置づけとなっておりますが、実際にこれを実現させるためには、並々ならない苦勞があります。今年度の事業遂行にあたっては、選択によって交換地区との交流から始まり、スウェーデンの 2360 地区との通信による決定に至るまでの委員会としての選定と、その派遣チームのメンバーとなる募集、そして、チームリーダーの選択、その結果によるチームメンバーによる事前研修という一種の工程式による流れを作り 1 ヶ月毎に係るチームリーダーとなる人の委員会への報告と連絡が実施されてその結果、22 年 5 月 1 日から 30 日間の帰国までの大きな事業の積み重ねによる結果が昨日（2010 年 6 月 26 日・土曜日）の報告会となりました。

チームの皆様はお元気で帰国されたようでありましたが、知らない文化の地区にホームステイと云う陰には種々言葉に言い表せないことがあったとは思いますが、人生の 1 ヶ月としての事業には良い思い出となって欲しいものと思っております。ご苦勞様でした。

しかしながら、昨日の報告は見事に理路整然とした説明には頭が下がる思いを致しました。いずれに致しましても、派遣したチームリーダーの丸山淳士（PG）をはじめチームの皆様には大変なご苦勞をお掛けしましたことに深くお礼を申し上げます。

またチームリーダーとして当初より今年 3 月まで、リーダーとしてチームの 4 名の方々に日夜を分けなくご指導を戴きました奥貫一之（札幌東 RC）さんには紙上をお借りしましてお礼を申し上げます。

そして一方では受入ましたスウェーデンの 2360 地区の方々とは、当地区の受入クラブの方々には大変な御苦勞をおかけ致しましたことにつきましては厚く御礼を申し上げたい気持ちで一杯で御座いました。国際交流と云ってもお互いに文化の違いが多々ありまして、スウェーデンには福祉国家と云う日本の現在社会においては望まれている一つの国であると思っておりますが、現実の内容には文化との差異があったと思えます。

今後はチームメンバーの方々にはロータリーをご理解して戴き、益々のご精進を重ねられて、社会の良き指導者としてご成長されますことを御期待申し上げます。

さて、ロータリー財団も変化いたしておりまして財団のプログラムのうち、GSE につきましては、同時に交換をすると云うことは出来なく、1 年毎に交換地区との交流になるやに伺っております。これも財団には教育的プログラムから人道的プログラムへの変化となる過渡期となった現在であります。

最後になりますが、当地区の GSE 委員会の益々の御発展を心から御祈念致します。

沼舘委員長をはじめ、委員の皆様のご御努力に対して、深く敬意を表し、報告の御礼と致します。

RI2360 地区とのGSEプログラムを終えて

RI2510 地区 GSE 委員会

委員長 沼 舘 栞

札幌清田ロータリークラブ

今年度GSE 委員会の事業は、スウェーデンのRI 第 2360 地区との派遣交換プログラムでした。

今回の派遣交換に際しましては、渡邊ガバナーをはじめ、神部代表幹事、岩城財団委員長の皆様には大変ご心配をお掛けする事態となり、無事にプログラムを終えることができるのか、胃の痛む毎日でした。

今年度の派遣交換は、例年と違い派遣メンバーの職種を絞り、重点的 GSE ということで社会福祉介護従事者を募りました。

そして、高齢者医療・福祉介護を学び体験するためにも、社会福祉の分野で最も進んだ国であるスウェーデンのRI 第 2360 地区と交渉して参りました。

RI 第 2360 地区はスウェーデン第2の都市イエテボリを中心とした地区です。当地区のGSE 派遣交換は 15 回目となりますが、今までヨーロッパとの交換が一度もなく初めての経験でしたので楽しみにしておりました。

今回 4 名の前途有望なメンバーを選出し、1 年以上前より毎月一度の研修会を開催する中、皆様のご協力もあり、素晴らしい派遣チームが誕生いたしました。

GSE のプログラムを成功させるためには、多くのロータリアンの皆様にご尽力いただくこととなります。

4 月 1 日からのRI 第 2360 地区の受入にあたりましては、北広島 RC をはじめ、留萌 RC・滝川 RC・室蘭東 RC・札幌東 RC の 5 つのクラブにお世話をいただきながら、1 ヶ月間の研修を無事終えることができました。

受入メンバーは行く先々のクラブで大歓迎を受け、彼らからは滞在地での素晴らしい体験を通し日本のイメージがより良いものになったこと、このような経験は人生の中で最も得がたいことの一つであり、沢山の方にこの GSE プログラムの素晴らしさを味わって欲しいとの言葉を頂き、この何ヶ月かの苦勞が報われた重いでございました。

そして、4 月 30 日には、丸山淳士チームリーダーと今回 GSE を通じて仲間になった 4 名全員が人生で共通する目標を持ってスウェーデンへと出発しました。

彼らはこの経験を通じて、スウェーデンと日本の文化の違いからくる医療、介護制度の違いを学ぶことができ、GSE でなければ出来ないような貴重な体験ができたことに大変感謝をしておりました。

GSE 委員会として、この度の派遣交換は素晴らしいプログラムになったと確信しております。

1 ヶ月と短い期間でしたが、派遣交換メンバーが遠い国で得た貴重な体験で、世界の平和を求める人間に成長し、今回の経験を自国で生かして地域に貢献してくれることを願っております。

最後になりましたが、ロータリアンの皆様のロータリー財団に対するご理解とご支援、並びに GSE プログラムに対するご協力があった、このプログラムが成り立っております。今回のプログラムに関わりました地区関係者の皆様、また関係グループのガバナー補佐の皆様、受け入れホストクラブ、ホストファミリーの皆様、ご協力有難うございました。GSE 委員会としまして、この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

受入チームメンバー紹介

カトリーヌ・アンダーソン（女） チームリーダー（2360地区）Boråsロータリークラブ

出身は、Boråsという古い人口11万人の繊維の町です。パートナー（伴侶）はヴァイオリンの教師をしていて、子供は居ません。年齢は54歳で両親と共に一人っ子として育ちました。ヨーテボリで英語とドイツ語を学びました。その後、スイスのSt.Gallに移り5年ほど経済学を学び修士を1982年に取得しました。

その後、繊維の卸しや通信販売を行なっている家業のためスウェーデンに戻りましたが、現在は通信販売を止め、卸売りを行なっています。この他、小売り店舗を2件有しており、衣料品や流行着、家具やインテリア用品を取り揃えています。仕事のすべてが楽しく、新作の発表会や、コレクションを訪れたりメーカーさんを回るのも楽しみです。また“Knalleland” in Boråsというショッピングエリアの改良にも取り組んでいて、今はそのことに忙しくしています。

この他、新聞社の役員も務めたり、環境問題の委員会に属したり、市の産業活性化に関わるグループにも参加しています。

ロータリーには1993年に入り、2002～03年にBoråsロータリークラブの会長を務めました。私のクラブは1930年に創立され、現在80名の会員が居ます。

学生時代に、実に様々な国の方とお会いしました。その仲間と一緒に働き、討論を行い、尊敬し合い、旅行にも行き、実にいろいろなことをしてお互いに学びあいました。本当に人生の成長期だったと思いますが、その時の経験が私の世界観を作り、外国の言葉や歴史、文化、作法、食べ物などに対する興味を引き起こしたと思います。

10代でしたが、現代美術に惹かれ現在も楽しんでいます。時間が許す限り美術館や博物館を訪れます。残念ながら私は、歌も楽器もやりませんが音楽を聴くのは好きです。特にオペラは大好きです。読書も時間を割く趣味の一つです。

運動は散歩くらいしかしませんが、家に居ても旅行に行っても楽しんでします。身体に良いだけでなく、いろいろなものを見ることが出来るので楽しみです。

日本には80年代に2日間だけ東京に行ったことがあります。その時は、もっともっと日本を知りたいと思いましたが、とうとう夢がかなうことと成りました。

カタリーナ・ブラッド（女） 団員

2360地区からのGSE団員の一員として、自己紹介をします。

私の名前はKatarina Brudといいます。年齢は28歳で、この3年はVenture Cupという会社でマネージャーをしております。この会社は、事業計画策定という分野に置いて、世界で一番大きな会社です。そこで、私の仕事は、事業計画の評価と共に、新規事業者に対する講義や指導を行っています。私は国際経済と政治学に関する研究やスウェーデン国内、南アフリカや米国での仕事に特徴的なのは、私が持つ、世界的な企業家に対する強い好奇心です。

仕事のほかには、ローターアクトに参加し、ここではスウェーデンの会長も勤めました。

音楽は、私の情熱を傾けるもので、若いことから興味を持っていました。今はピアノのほかゴスペルを歌っています。日本における音楽文化に接することが出来たら望外の喜びです。

自由な時間があるときはworking outに熱中しています。とくにmartial artが好きです。ですので、日本におけるmartial artにとっても興味を持っています。

来年4月に日本を訪問した際に、日本の企業家育成や事業拡大、輸出で成功している企業などについて学べることに大いに期待しています。出来たら、企業家育成を行っている会社や組織、いわゆるインキュベーターを訪問したいと思っています。

また、成長を遂げている企業や商品やサービスの輸出を行っている会社についてもとても興味があります。また、ファッションやインテリアデザイン業界、それに国際的な企業についても個人的には大いに興味を持っています。

2005年に、アメリカのワシントンDCにあるスウェーデン大使館でjunior diplomatとして勤務しました。そのとき、スウェーデン大使館にサクラ・プリンセスとして選ばれて、サクラ祭りに参加しました。このサクラ祭りは、日本とアメリカの友好記念なのですがその際に、日本に興味を持ちました。

本当に日本を訪れることについて期待は大きく、大いに日本の伝統文化や商習慣について学びたいと思っています。同時に、私の経験などを分かち合えると幸せです。

Katarina Brud

サラ・ストール(女) 団員

出自(ふるさと)

年齢は32歳で、目の前に広い海のみえる小さな家に住んでいます。猫(黒くて大きい)を飼っています。家族の全員の家は10分以内のところにあります。家族は母・父・姉妹一人・兄弟二人とその家族たちです。友達も近くにいますので月に二回一緒に食事をします。健康を保つことを大切にしています。美味しい料理とともに。

仕事

Marknad Varberg 社と言う共同体のメンバーです。会社の目的はVarberg(町の名前)とその周辺地域の観光・商業・工業のマーケティングです。私は観光部門に所属しています。現在の活動はVarbergの町を「スウェーデンで一番の温泉街」にするべく町起こしをしています。全地域のマーケティングに大変興味をもっています。そしてMarknad Varbergのメンバーとして仕事の発展を促進したいです。

GSE参加の目的

日本ではGSEを通して世界的に有名な観光先進地を見て、日本の観光産業のとくにマーケティング方法等を勉強したいです。さらに、もちろん日本の独特な興味深い文化について学びたい、特に健康と生活スタイルに興味があります。そしてまた、日本の温泉の発展と変化もみたいです。

自己開発

会社のメンバーとして一生懸命活動しています、これから経験を積んで、さらに自己発展をしたい。

カミラ・プラス・マネスタール(女) 団員

私はCamilla Brath Mannerstålです。この文章で私の休みの過ごし方を紹介したいと思います。

私の性格は積極的、好奇心にあふれて、約束を守る人間です。目的意識が強く活発に物事に取り組むほうです。どのようなイベントでも積極的に準備する経験が豊富にあります。

外向的な性格なので戸外でできるスポーツはなんでも好きで、じっとしているのは本を読むときとワインを飲むときぐらいです。Gothenburg(ヨーテボリ)の近くに私の姉妹と3人で別荘を持っていて、ここで多くの時間を過ごしています。

できるだけ旅行もするようにしています。大学では産業工学と経営学の修士課程で学び、中南米の大学でも勉強しました。昨年ハネムーンのネパール旅行では夫の Erik とエベレスト山の麓まで出かけました。

仕事は Gothenburg 市（人口50万人）で Volvo 社の商品開発課長を勤め、このほかにも様々な部署で働いた経験があります。現在は Volvo 社の飲酒運転防止設備の導入を担当しています。

これからの日本での交換経験を大変楽しみにしています。旅行だけでは知る事のできない日本の人びととの付き合いもできるので、ただ料理と文化だけではない有意義な経験になると期待しています。可能であれば、工場と商品開発部の見学はぜひ実現したいです。もし、トヨタの工場を見学できたら夢のようです。

デニス・ラーセン(男) 団員

こんにちは

私の名前は Dennis Larsen、27歳です。住まいは Gothenburg 市の近くの Alvhem 町です。学校卒業後、経済学を学びましたが、その間、将来やりたいことがあるのに気が付きました。現在は、ある NPO の、Junior Achievement Young Enterprise Sweden で学校関係の仕事をしています。仕事の内容は、起業精神を学生に呼び起こす啓蒙活動です。この活動を通して学生は目覚ましく進歩し、多くの驚きと喜びを感じるようになります。夏期には Warwick University と Oxford Brookes University で非常勤講師として起業講座をもっています。

仕事以外では友達、ガールフレンド等と時間を過ごし、テニスとバドミントン、それに走るのが趣味です。友達と三ヶ月ごとに何かかにかの競争を定期的に行っています。勝った者が次の企画をします。

また、旅行し足りないの、新しい国へ行きたいと思っています。今まで主にヨーロッパと北米にしか旅行していないので、アジアへ旅行することは大変楽しみにしています。

今回、日本を訪問している間には学校（高校と大学）で起業活動にどのように取り組んでいるかその方法などを勉強したいです。さらに私は所属している Junior Achievement NPO の日本版があれば、是非関係者に会ってみたいです。

成功して活躍中の起業家の方々にも会ってみたいです。

日本の文化についても学びたいと思っています。相撲、剣道(是非やってみたい)等、そしてもちろん日本の美しい自然も見たいです。日本料理にも興味があります。伝統的な日本料理を作ってみたいです。

子供のころから日本に興味をもっていました。特に伝統を守りながら近代的な社会として発展してきた国として。これからの研修を大変楽しみにしています。

2010年 国際ロータリー第2360地区
受入日程表

日 時	担当クラブ	日 程	備 考	滞在日数
4月1日(木)		スウエーデン発		
4月2日(金)	GSE委員会	千歳着 出迎え 後休息	北広島クラッセホテル泊(GSE委員会)	1日目
4月3日(土)	GSE委員会	午前オリエンテーション オリ エンテーション後 歓迎会	北広島クラッセホテル泊(GSE委員会)	2日目
4月4日(日)	北広島クラブ	北広島クラブへ	ホームステイ先 泊(北広島RC)	3日目
4月5日(月)	北広島クラブ	休日	ホームステイ先 泊(北広島RC)	4日目
4月6日(火)	北広島クラブ	(北広島RC例会参加)	ホームステイ先 泊(北広島RC)	5日目
4月7日(水)	北広島クラブ	(恵庭RC例会参加)	ホームステイ先 泊(北広島RC)	6日目
4月8日(木)	北広島クラブ	(千歳RC例会参加)	ホームステイ先 泊(北広島RC)	7日目
4月9日(金)	北広島～留萌	昼食後 留萌RCへ移動	ホームステイ先 泊(留萌RC)	8日目
4月10日(土)	留萌クラブ	休日	ホームステイ先 泊(留萌RC)	9日目
4月11日(日)	留萌クラブ	(第1グループIM)	ホームステイ先 泊(留萌RC)	10日目
4月12日(月)	留萌クラブ	団体研修プログラム	ホームステイ先 泊(留萌RC)	11日目
4月13日(火)	留萌～滝川	職業研修	ホームステイ先 泊(滝川RC)	12日目
4月14日(水)	滝川クラブ	(滝川RC例会参加)	ホームステイ先 泊(滝川RC)	13日目
4月15日(木)	滝川～委員会へ	滝川から午後委員会へ	札幌後楽園ホテル泊(GSE委員会)	14日目
4月16日(金)	GSE委員会	(派遣チームとの交歓会)	札幌後楽園ホテル泊(GSE委員会)	15日目
4月17日(土)	札幌～室蘭	午後室蘭東RCへ移動	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	16日目
4月18日(日)	室蘭東クラブ	職業研修	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	17日目
4月19日(月)	室蘭東クラブ	休日	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	18日目
4月20日(火)	室蘭東クラブ	職業研修	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	19日目
4月21日(水)	室蘭東クラブ	(室蘭東RC例会参加)	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	20日目
4月22日(木)	室蘭東クラブ	(室蘭RC例会参加)	ホームステイ先 泊(室蘭東RC)	21日目
4月23日(金)	室蘭～札幌	札幌東RCへ移動	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	22日目
4月24日(土)	札幌東クラブ	(第4、5グループIM)	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	23日目
4月25日(日)	札幌東クラブ	休日 二セコ散策	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	24日目
4月26日(月)	札幌東クラブ	職業研修	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	25日目
4月27日(火)	札幌東クラブ	(札幌西RC例会参加)	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	26日目
4月28日(水)	札幌東クラブ	職業研修	ホームステイ先 泊(札幌東RC)	27日目
4月29日(木)	札幌東RCより GSE委員会へ	第5グループから午後委員会へ (休息)送別会	札幌第一ホテル 泊(GSE委員会)	28日目
4月30日(金)	GSE委員会	午前 休息 午後 反省会	札幌第一ホテル 泊(GSE委員会)	29日目
5月1日(土)	GSE委員会	札幌発 東京へ	東京泊(セントラルホテル)	30日目
5月2日(日)		東京発 スウエーデン着		31日目

受入状況報告

出迎え・オリエンテーション

GSE委員 トーキル・クリステンセン
札幌南ロータリークラブ

国際ロータリー第2360地区からのスウェーデンチームは、4月1日（木）に予定通りJAL521便で新千歳空港に到着しました。空港には地区GSE委員会の多数の委員が出迎え歓迎を受けました。その後、北広島RCが用意した送迎バスに乗りこみ、空港から白鳥の居る早春の畑の中を走り北広島クラッセホテルへ移動しました。その日は旅の疲れもあり、短い歓迎式のみで一日目の予定を終えました。ホテルでの夕食は、石丸副委員長が付き合い、初日から日本食に挑戦でした。ここで出された生たこのお刺身が少々辛かったようでした。

翌、4月2日は朝食後、ホテルの周りの雪の残るゴルフ場を散歩し北海道の空気を十分に吸い、昼食で沼館委員長、石丸副委員長およびトーキル委員とカレーライスを摂った後、部屋を移しこれからの四週間の予定について、また、北海道の地理の説明などについてプロジェクターを使い石丸副委員長からのオリエンテーションが一時間ほどあり、その後は夜の歓迎会に臨みました。

国際ロータリー第2360地区派遣チームを迎えて

GSE委員 遠藤友紀雄
小樽ロータリークラブ

4月2日、北広島クラッセホテルにおきまして、スウェーデンからの派遣チームの歓迎会を行いました。

彼らは前日に新千歳空港からまっすぐ北広島へ入り、投宿先のホテルの温泉でゆっくりと長旅の疲れも取れた様子で、笑顔で会場に現れました。

はじめに渡辺ガバナーより心からの歓迎の言葉と大いに研修と交流をはかられますようご挨拶をいただき、また岩城財団委員長からも歓迎の意と高い成果を得られるよう力強いエールがあり、歓迎の宴は始まりました。会場はホストファミリーや受け入れいただくグループ、クラブのかたがたが四つのテーブルに分散し、リーダーと四名の派遣メンバーがそこに分かれて座り、交流が始まりました。

彼らから自己紹介や住んでいる町、仕事、そして国についての紹介があり、プロジェクターによる映像を駆使したプレゼンテーションに皆見入っていたようでした。

また受け入れ側のメンバーやホストファミリー、そして私たち委員会メンバーの自己紹介を行いました。中でも翌月日本からスウェーデンに向かう予定の派遣チームを代表して丸山リーダーから英語でスピーチがあり、すばらしいジョークで早速みんなを笑わせていたのはさすがでした。しかもご本人いわくは英語が苦手と特訓中とのこと。そのセンスの良さとその実行力に敬服いたしました。私も英語の自己紹介くらい用意すべきだったかと反省しました。

英語に難のある私としては歓迎会での交流もたいへん躊躇いたしましたが、クリステンセン委員の教えの通り、文法などにとらわれず、まずは知っている単語を並べることから怖がらずに始め、最後は身振り手振り、筆談も交え思いのほか交流をすることができました。

彼らは多くの候補者の中から選ばただけであり、とてもしっかりとした目的意識や知性、品性を伴っており、私たちの問いかけにも常にフレンドリーにかつ精一杯答えようとする姿勢が感じられます。これからの一月にわたるプログラムでなんとか彼らの期待に答えるよう、委員会一同あらためて気を

引き締め歓迎会を終了しました。

D2360 地区GSEメンバー歓迎会

GSE 委員 宮崎 善昭
札幌西ロータリークラブ

2010年4月2日（火）午後6時～8時、札幌北広島クラッセ・ホテルにて歓迎会が開催された。歓迎会は、岡崎芳明前地区GSE委員長の歓迎の辞に始まり、日本、スウェーデン両国国歌が斉唱された。岩城秀晴地区ロータリー財団委員長（パスト・ガバナー）より歓迎と本交換プログラムの意義、受け入れ団員に対する研修の期待などが話され、続いて渡邊恭久RI2510地区ガバナーより国際ロータリーの青少年プログラムの意義、本プログラムの位置付けと可能性、地区GSE委員会に対しての慰労などのお話があった。

これらの丁寧な歓迎の辞に続き、2360地区GSEチームリーダーのカトリーヌ・アンダーソン女史より感謝とこれからの研修に対する期待、受け入れ地域やロータリークラブとの交流への期待、多くの日本文化に触れこれを学ぶことの期待などが述べられガバナー、財団委員長、GSE委員長にお土産が渡された。

乾杯を加藤寛治第7グループガバナー補佐が行い、会食が始った。3つのテーブルに2360地区リーダー・団員、2510地区派遣団員、委員、ホストファミリーがそれぞれ分かれて座り交流が開始された。参加メンバーのアカデミックさが如何なく発揮され、それぞれの国の歴史・風土、制度、食べ物や飲み物などの話や、御互いの職業、趣味についてなど多岐にわたって話が弾みこれから一ヶ月間の研修や交流の在り様を予感させるものでもあった。

そして宴も酣になり、コンピューター映像により2360地区団員（男性1名、女性3名）による自己紹介を兼ねたプレゼンテーションが開始され、彼らのアピールがコンパクトにまとめられた内容になっており興味深くこれを観賞することができた。

この後、沼館菜地区GSE委員長による委員の紹介、丸山淳士派遣チームリーダーによる挨拶と団員の紹介、馬場信吾委員によりホストファミリーの紹介があり、最後に金坂和正委員による閉会の辞によって会は盛会の内に閉じることができた。

派遣団員との交換会

GSE 委員 遠藤友紀雄
小樽ロータリークラブ

スウェーデンからの派遣チームのプログラムも二週間を終えた4月16日、委員会と派遣チームの交換会が行われた。

二週間前に北海道に着いて以来、北広島、留萌、滝川と過密なスケジュールでよほど疲れているだろうと心配したが、そんな心配をよそに彼らは明るく元気一杯に札幌へ帰ってきた。むしろ訪問先や研修先、ホストファミリーの皆様の親切な対応にとても感激していた。

研修については、希望通りのプログラムばかりとは行かないとは思いますが、一箇所あたりの時間がもう少し欲しいとのことだった。また食べ物についてはどこで何をいただいてもとてもおいしく、素晴らしいと全員が賞賛していた。そしてどこの町へ行っても温泉があり日本の皆さんがうらやましいと

のこと。スウェーデンにはサウナは当たり前にあるが、温泉がないという。サウナは多くの家庭にあり、特に郊外ではサウナに長時間入ったあと雪の上に裸で転がることは当たり前なのだそうだ。また翌週からの登別温泉にもとても興味があり、入浴体験には最低2時間は欲しいとの具体的な要望も出るほどだった。

また文化交流に関することもまたたいへん興味深いものが多いとのことで、いろいろと質問をいただいたが、日本の伝統文化は例えば華道、茶道、弓道、剣道、能楽などどれをとっても「精神世界」の説明が不可欠であり、それを説明するには高いレベルでの語学力が要求されると思われ、私はうまく伝えることが出来ず残念だった。日本の伝統文化の素晴らしさはこの「精神世界」にあるので、今後の交流のためにも多くの日本のロータリアンがうまく説明できるようになるといいなあと痛感した次第。

また、この数日でアイスランドの火山の噴火による噴煙がひどくなり、ヨーロッパ各地の空港が閉鎖されていることが連日ニュースで報じられていた。二週間後の帰国についての不安を口にはしたが、「もし飛行機が飛ばなかったらずっと北海道にいますのでよろしくお願いします！」と周囲を笑わせるところはさすがだったが、私たちもこのことについては運を天にまかせるほかに状況の好転を祈るのみだった。

この中間での交換会は、派遣チームメンバーの様子を確認するうえでとても重要なタイミングであり、健康状態やプログラム内容についての反省点、改善点などを見つける上でもとても大切な意味をもつと思われる。そしてそれらを翌週からのコーディネーターにきちんと伝え、オリエンテーションに反映させることが重要であると感じた。

送別会・壮行会

GSE副委員長 石丸修太郎
札幌西ロータリークラブ

2010年4月29日、最後のホストクラブである札幌東ロータリークラブから、最後の投宿先である札幌第一ホテルに移動したスウェーデンチームは、膨れた荷物を先に成田に送る手続きを行い、送別会に臨みました。また、翌日出発する2510地区チームは少々緊張した面持ちで壮行会に臨みました。会場には、コーディネーターやホストファミリーおよび関係者含めて58名が集いました。

午後4時の開会において沼舘委員長から感謝の意をこめた挨拶があり、その後、派遣チームが壇上に入り、丸山リーダーから、楽しい決意表明を頂いた後、団員一人一人より期待と決意が述べられました。1年の永きに渡り準備をしてきた成果をこれからスウェーデンにて発揮する意気込みが感じられ、とても頼もしく感じました。

続いて、スウェーデンチームからの発表があり、日本語も交えながらの感謝の意が伝えられました。その後、5人が壇上で、スウェーデンで行われる夏至のお祭りを再現しましたが、なぜかデブの石丸が、本来踊りの中心となるお花で飾られるポール役となったのには、会場から爆笑を得ていました。また、夏の終わりのお祭りも再現し、最後にウォッカをぐい飲みする小道具まで用意しており、皆を沸かせていました。その後、前日から寝ずに作成した、パワーポイントの資料を使って、滞在した4週間の思い出と感動について音楽付きでプレゼンテーションが行われ、関係者の記憶を蘇らせ大いに喜ばせていました。

プレゼンテーションが済んだ後、矢橋パストガバナーからGSEの思い出話があり、会場は笑いの渦に巻き込まれました。その後、渡邊ガバナーおよび岩城財団委員長から御挨拶を頂き、それぞれの

リーダーにプレゼントが手渡されました。

爾後しばらく食事と飲み物で歓談が為され、アルコールで舌の周りが良くなったところで、留萌RCの田中さんをはじめに多くのホストファミリー、コーディネーター、GSE委員からスピーチを頂き、熊澤ガバナーノミニーから、GSE活動への決意が述べられました。

その後、スウェーデンチームの団員に再度壇上に上がってもらい、今後についての抱負を聞かせてもらいました。全員が、今回の経験を貴重なものとして、日本とスウェーデンの架け橋となるという気持ちが伝えられ、集まった関係者の感動を得ていました。

最後に、沼館委員長より、渡邊ガバナーへ、叙勲のお祝いの花束が贈呈された後、荒ガバナー補佐の締めで閉会となりました。その後、全員で集合写真を撮りました。

翌日のスケジュールが楽なスウェーデンチームと流れて夜のススキノのカラオケで盛り上がった方々も多くいらっしゃいましたこと付け加えております。

しかしながら、この時点で、5月1日に東京で泊まるホテルが決まっておらず、石丸が手配することとなったのも、のんびりした性格と言いましょか、おおらかな精神で実に感銘を受けた次第であります。

反省会

GSE副委員長 石丸修太郎
札幌西ロータリークラブ

前日の送別会に引き続き、4月30日は、派遣チームの出発の日であり、遠藤GSE委員が羽田野さんを、宮崎GSE委員が松本さんと鈴木さんを、石丸GSE副委員長が丸山リーダーと竹内さんをそれぞれ千歳空港まで送り届け、沼館委員長はじめGSE委員会のメンバーが派遣メンバーの御家族と一緒に盛大にお見送りしました。

その後、札幌市内に戻り、午後3時30分よりサッポロ海陽亭の落ち着いたある外界と隔離された和室で、スウェーデンチームの反省会を開催しました。

アンダーソン・リーダーからは、2510地区の関係者に対する感謝の意が述べられ、その後それぞれの団員からコメントが寄せられました。その多くは賛辞になるものでしたが、いくつか今後の参考となる意見も出されました。例えば、交換用のバナーの必要数について事前に通知することで、不足に陥る事態を回避できたのではないかという点や、それぞれのスケジュールが立て込んでいて余裕が無かった点、同世代との交流が少なく意見交換の場が無かった点などが上げられました。

その後、海陽亭さんの美味しい和食に舌鼓を打ちましたが、日本酒よりか、彼らにはやはりワインが合うようでした。その後、アンダーソン・リーダーは沼館委員長と流れて深夜までお話込んだとのことですが、団員4名は、石丸副委員長と他のGSE委員のメンバーとスナックに流れ、そこで歌や踊りで大いに盛り上がり、仕上げは、ミッドナイト・ジギスカンでススキノの最後の夜を楽しんだのであります。ホテルに戻ったのは午前2時近くでありましたが、翌日朝7時30分の出発時間には、誰一人遅れずに集合し、千歳空港に向かったのは流石であります。

5月1日午前8時30分に千歳空港に集合したスウェーデンチームは、チケットの書き換えで予約より早い便で東京に向かうことが出来ました。ホテルは、スウェーデンチームの「銀座へ行きたい。秋葉原を見たい。」と言うような希望により、神田のビジネスホテルを予約してあることを伝え、沢山の皆さんの万歳での見送りを受け、帰国の途に着いたのであります。

第7グループGSEコーディネーター

北広島ロータリークラブ

馬場 信吾

以前、青少年交換委員をお引き受けした折、大変お世話になった沼館委員長より、昨年6月、GSE地区委員の任命をうけました。実力のあるGSE委員の方々から少しずつ勉強をさせて頂こうと思っていたところ、いきなり今回のコーディネイトを任せられ、困惑いたしました。どのようなプログラムを組めば良いのか頭を悩ませましたが、GSEのメンバー及び、加藤ガバナー補佐より助言を頂き、又、千歳、恵庭、北広島RCの協力を仰ぎ、なんとか一連のプログラムを組むことが出来ました。

深く感謝いたします。

以下、第7グループとしての行程を紹介いたします。

4月3日、トーキル委員とボランティア通訳の方のご案内にて野幌開拓記念村見学。北海道の歴史の香りを楽しんで頂けたと思っています。

4日、各ホームステイ先にて、交流を深めて頂きました。

5日、北広島市内見学。

市長訪問のち、大曲札幌八幡宮(菊池重敏会員)にて神妙な面持ちで旅行安全祈願をうけ、その後、中の沢にある宙吹きガラス工房ガラスノウチでおのおの個性的な芸術作品を創造したようです。夜、北広島RC例会に出席。

6日、北星学園大学 濱文章教授の御紹介で、同大学西脇隆二(マーケティング専攻)、宣野智篤(フェアトレード専攻)両教授の講義を拝聴し、有意義な時間を過ごして頂けたと思っています。

7日、恵庭RCの村元会長の御指導のもと、ジャパニーズカルチャーの代表である書道初体験。及び、恵庭RC昼例会出席、えこりん村でトマトの木におどろ木。札幌ビール工場見学と共に、盛大なるジンパを開催して頂き、一気に盛りあがりました。

8日、千歳RC酒井宏会員の御紹介により、自動変速機世界シェア75%を誇るダイナックスの本社、工場の見学(ダイナックス堺多一郎様には大変お世話になりました)。その後、千歳RC例会に集積、丸駒温泉にスウェーデン国王が来訪されていたことを伺い、大変驚いた様子でした。例会の後は千歳レラでおかいもの、北大にてアイヌ民族の勉強、温泉ツアーなどそれぞれに判れて楽しんだ様子です。

9日、留萌までトーキル委員添乗にて電車移動。

以上、7日間皆様の惜しみ無い御協力のお陰を持ち、無事全行程を終了することが出来ました。手と手が輪になり世界に繋がって行く。

あらためてロータリアンとしての幸福を感じているところです。

有難うございました。

第1グループGSEコーディネーター

留萌ロータリークラブ
西谷 英樹

今回 GSE コーディネーターになった経緯はスウェーデンに派遣されるメンバーに弊社の従業員も応募しまして、見事落選してしまいましたが、第1グループの田中ガバナー補佐にスウェーデンチームの受け入れのコーディネーターを受けるよう説得されてしまいました。私自身はじめての関わりですので戸惑いもありましたが大役を受けることに致しました。二度ほどコーディネーター会議に出席しましたが、金坂委員のご指導のもと何とか GSE の事業を理解し、留萌クラブをまとめ上げ、研修先の確保やホスト・ファミリー宅の手配や打ち合わせをして、又、滝川クラブのご協力のおかげで、それほど研修先に乏しい留萌で非常に印象深く又、北海道の文化にふれることが出来た最高の研修が出来たとわたくし自身大満足しています。

スウェーデン・チームが北広島で研修を受けてる間に馬場コーディネーターから事前に無かった情報を頂いたりして、ホスト・ファミリーに対応の確認が出来、言葉の壁やコミュニケーションの取り方に多少なりにも役に立ったのかとも思います。実際受け入れが始まってからは、初日は多少、お互いに堅さも見られましたが日を追うことに楽しくホームステイしている感じが致しました。後半、滝川に移動するときは、ホスト・ファミリーの会員は非常にさびしそうに見送りしていたのが非常に印象に残りました。滝川に移動してからはガバナーはじめ、会長や坂本国際奉仕委員長のおかげでトーンダウンすることなく室蘭地区にバトンタッチできたと思います。

最後に今回の GSE 受け入れで、昼食をお願いしていた会員の店があったのですが、当日、その会員の親が亡くなったにも関わらず最後まで職務をこなしていただいたことにロータリーの友情を深く感じましたことを報告いたしまして感想文とさせていただきます。

第9グループGSEコーディネーター

室蘭東ロータリークラブ
村木 一夫

昨年地区協議会開催の際に、黒田ガバナー補佐からスウェーデンGSEチームを第9グループで引き受けることになったので、私に担当コーディネーターを頼む、と云われました。突然のことだったので、考える間もなく引き受ける返事をしてしまいました。後になって、これは大変な事を引き受けてしまったと後悔しておりましたが、第9グループの会長・幹事会において黒田ガバナー補佐からの協力要請があり、所属6クラブが全面的に協力し、資金面も6クラブで平等に負担するということになり、私も大変心強く思い安心しました。

私自身も、GSEコーディネーターは初めての経験ですので不安でしたが、数回の地区GSEコーディネーター会議で受け入れマニュアル等の説明を受け、特に地区GSE直前委員長の岡崎様や委員の遠藤様のご指導を受け、何とか個人研修・団体研修等の行程を作成することができました。しかしGSEメンバー5名のホームステイ先がなかなか決まらずたいへん苦勞しましたが、私もチームリーダーであるカトリンさんのホストファミリーを引き受け、何とか昨年12月末までに全て決まり、安堵いたしました。

研修日程につきましては、地区委員の遠藤様のご助言を受けながら、個人研修・団体研修・観光・文化交流の四つに分け、また第9グループ内ロータリークラブ各会員の協力により、少々過密な日程

とはなりましたがGSEメンバーの職業に合った研修先を決めることが出来ました。

団体研修では新日鐵の棒線工場の見学中に機械が故障し、生産ラインが止まるハプニングがありましたが、溶鉱炉では真っ赤に溶けた銑鉄が流れ出るところが見られました。特に日本製鋼所では、世界最高水準を誇る原子力発電用のタービン・ロータシャフトの製造工程（1万4千トンプレス稼動中）を見学し、メンバーの皆さんは熱心に質問をしていました。

文化交流はお琴や日本舞踊を交えて、茶道裏千家・華道の先生より楽しい中にも熱心に指導を受けておりました。

観光はあいにく天候が悪く、サミット会場のウィンザーホテルではホテル支配人のご配慮により、米国のブッシュ大統領の宿泊室（4室）を特別に案内していただきました。

あっという間の一週間でしたが、GSEメンバーはチームリーダーはじめ素晴らしい方々で、私も一週間忙しい中にもとても楽しく一生心に残る良い思い出になりました。過密な日程をGSEメンバーの皆様が疲れた顔も見せずに、元気に笑顔で日程をこなされていたことに、とても感服しました。

無事受け入れを終えて、この度ご協力を頂きました第9グループ各クラブの会長はじめロータリアンの皆様、そしてホストファミリーの上田様、松岡様、野村様、栗本様には心より感謝を申し上げます。またご指導ご助言いただきました地区GSE委員の方々に改めてお礼申し上げ、報告と致します。

第5グループGSEコーディネーター

札幌東ロータリークラブ

犬嶋 清幸

思えば長い一年だった気がします。初めて地区にださせていただきGSEが何かも分からず今回のプログラムを体験しました。

委員会メンバーとして、コーディネーターとして、さらにホストファミリーとしてGSEプログラムに参加できたことに、今は大変感謝している次第です。昨年の6月に初めて委員会に参加して以来、毎月1回の委員会、そして今年に入って3月からの受入スケジュール調整の慌ただしさ、一時はどうなることやらと思いましたが、終わってみればあっという間の一週間。過去を受入国のメンバーについては、まったく分かりませんが今回のスウェーデンチームメンバー、本当にできた子達？ばかりで夫婦共々毎日ハードではありましたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。

スウェーデンの若者たちのレベルの高さに感心するとともに、このプログラムがもつすばらしさを是非、多くのロータリアンに知っていただきたいと思います。

まさに、GSEプログラムはヒューマンプログラムであり、これからも継続されていくべきプログラムで、将来、縮小の憂き目にあってはいけないのではないのでしょうか。

4月23日（金）

札幌駅 12:30 集合 我が札幌東クラブの矢橋・岩崎会員とともにランチをしながら、室蘭からの到着を待ちました。13:52分ホームにて列車の到着。思ったよりメンバー元気で一安心。第一ホテルへ直行しスケジュールミーティング。のちジャパニーズ“ゆかた”の着付と写真撮影。ゆかた・帯・下駄の三点セットはプレゼント。京呉服さい藤の齊藤さんの見立ては、ばっちりメンバーも大喜び。しばし休憩のあと歓迎会の開催。総勢42名の参加で大いに盛り上がりファーストパーティーの終了。その後、荒岡会長のお計らいでススキノにてセカンドパーティー。スウェーデンメンバーの素晴らしいハーモニー“ダンシングクイーン”飲んで歌って他のお客さんも圧倒されるほどの大盛況。あ

っというまに初日が過ぎました。

4月24日(土)

朝、第一ホテルからアサヒビール園へ向けて出発。中島公園経由で途中、八窓庵、豊平館、キタラ見学、これが後々我らロータリアンメンバーの大きな間違い。地下鉄 南郷7丁目からビール園の遠いこと、ビール園に到着したときには、日本メンバー全員くたくた。それに比べて、スウェーデンメンバーの元気なこと。若いということもありましたが、とにかく元気。工場見学の後は、ロイン亭でランチバイキング。ここでもびっくり、食べることに食べることにただだみとれるばかりでした。

ビール園をあとに、サッポロファクトリーにてショッピングタイム、集合時間が来てもなかなかもどらない。IMにおくれるぞと気をもみました。プリンスホテルのIMに無事参加して二日目終了。

4月25日(日)

この日は、GSE石丸副委員長、札幌西RCの石谷ホストファミリーにおまかせし、ニセコに出発。私自身はゆっくりとお休みをいただきました。

4月26日(月)

ニセコから小樽経由、小樽では、岡崎直前委員長・遠藤委員のお計らいで小樽・小樽南クラブとのランチ、さらには能楽堂にて能楽の体験。札幌にもどり、石谷さんの東札幌病院訪問。今日もゆっくりさせていただきました。

4月27日(火)

本日は札幌市長表敬訪問の日、テレビ塔、時計台を見学して札幌市役所へ、市役所の担当者も含め、総勢20名で上田市長とご対面あつという間の15分間でした。市役所をあとに三越へ、札幌西RCさんの例会へ参加。のち、白い恋人パークへ。ほとんど見学はせず、おいしそうなケーキを前にティータイム。

4月28日(木)

いよいよ本番、本日は個別研修の日。カミッラグループ・サラグループ・カタリーナ・デニスグループの3班に分かれて行動開始。カミッラは、岩崎会員と蓮井会員の札幌トヨペットへ。サラは、私と米津元会員と北海道観光振興機構へ。カタリーナ・デニスは、矢橋・井上会員と、ビズカフェへ。午前中の研修が終了し、大山会員のレストラン“ミア・アンジェラ”にてランチタイム。午後からは、カミッラ・サラが、坂口会員のさがみ屋へ、カタリーナ・デニスは、札幌市デジタル創造プラザへ。全員無事に職業研修を終了しました。

4月29日(金)

午前中は11時30分に第一ホテルに集合。フリータイムののち委員会へ。

以上が受入1週間のスケジュールでした。当初、あれもこれもと考えていましたが、以外にゆつたりとスケジュールが組めたような気がします。それでもハードな1週間だったと感じています。このプログラムが終了するにあたり、まずはチームリーダーを含めスウェーデンメンバーの若者たちに感謝申し上げます。今回ホストファミリーをお引き受けいただいた、札幌西クラブの石谷さん、当クラブの朝倉さん、井上さん、出倉さん、そして奥様をはじめご家族の皆様、1週間私と共に同行してい

ただいた、矢橋さん、岩崎さん、ゆかたの着付をお願いした京呉服のさい藤、斎藤さん、写真撮影をお願いした村重スタジオの村重さん、市長表敬訪問をはじめ要所で通訳をお願いしたプロフェッショナルの渡辺まどかさん、個別研修でご協力をいただいた、北海道観光振興機構の茂手木さん、ビズカフェを案内していただきました佐藤等公認会計士事務所の佐藤さん、札幌市デジタル創造プラザの小林さん、札幌トヨペットの蓮井さん、さがみ屋の坂口さん、個別研修で同行していただいた米津さん、大山さん、メンバーの宿泊を含め札幌の拠点となった第一ホテルの米澤さん、ありがとうございます。

歓迎会を含め、いろいろとお力添えをいただいた札幌東クラブの荒岡会長、坪井幹事、遠藤財団委員長、そして、多くの会員の皆様ありがとうございます。最後に1年目の私に適切なアドバイスを始め、いろいろとご協力をいただきました地区GSE委員会のメンバーの皆様に感謝を申し上げます。

最後の最後にスウェーデンメンバーの若者たちよ **see you again !!**

GSE 受入を終えて

北広島ロータリークラブ
加藤 寛治

我が家では団長のカトリンとカミーラの2名を受け入れました。2人共、明るく、家の家族ともすぐに打ち解け、毎日結う食事に、笑いがたえませんでした。食事に関しては好き嫌がなく、何でも食べておりました。

思っていたより、時間には正確であったと感じました。

カミーラは日本の車製造に大変興味をもって、千歳のダイナックスを2度も訪問しました。ガラス工芸では指導を受け、それぞれ作成し、グラスやお皿など素敵なお土産となりました。又、第7グループ各クラブには御協力頂き、恵庭 RC、千歳 RC にはスケジュールを組んで頂き、大変助かりました。

スケジュールが盛り沢山で忙しかったのですが、あっという間の1週間で2人の団員の方も変える際には非常に喜んでおり、無事、終えたことに旨を撫で下ろしました。

サラさんと過ごして…

北広島ロータリークラブ
瀬川五水・晴美

彼女は私達の仕事が一番忙しい4月に我が家にやってきました。

今までも空手の修行をしたいルーマニアから来た男性やデンマークから来た男の子など結構預かっていましたのでどうにかなるだろうと思いましたがチョット時期が悪いな…という感じでした。なにせ8時には家を出て帰りは5時過ぎなのでろくにお構いはできませんでした。サラは温泉についての日本の状況に興味を持っていたのでそれなら私たちにも（温泉好きです）お預かり出来るかなと思っただけです。

温泉につれて行って何を学ぶかは本人にお任せで、いったいどう思って何を感じていったのかは不明。願はくばサラがなにがしかの収穫を持ち帰ってくれる事と日本について良い印象を持ち帰ってくれることです。

驚いたのは歓迎会と送別会のセレモニーです。凄く盛大で英語が飛び交いチョット間違っただけと尻込みしました。自覚のないままに受け入れてしまったと思いましたが普通の日常を見せるのが一番とすぐに居直り（いつものパターン）どうにか一週間を過ごしました。サラさんは、ある意味日本人より日本人的な印象でしたが反面とても活動的でパワフルで（あの凄い荷物）を持って移動する体力うらやましい限りです。できうるならば語学力があればもっと語り合えたかな…と思って反省しています。サラさん…ごめんなさい。

「スウェーデンからの GSE 受入を終えて」

留萌ロータリークラブ

第1G ガバナー補佐 田中公一

前回タイからの受入では、コーディネーターを務めさせていただきましたが、今回は IM もありましたので、留萌が受入を一番初めに表明し、地区委員会には日程で便宜をはかってもらいました。

6年前は小平 RC、羽幌 RC さんにも研修をお願いしましたが、今回は後半を滝川 RC さんにお引き受けいただいた事により、さらに充実した研修内容になったと確信しております。第1回のコーディネーター会議の時には、スウェーデン側の事情で状況が判らなく、地区委員会でも困っておりましたが、来日されたリーダーのカトリーヌさんは、地区の HP にも書かれているように、『とても落ち着いた淑女で、英語での会話も、一言一言かみ締めるようにお話ししていただけます。』お会いした皆さんが同じ感想をもたれたと思います。研修終盤に沼館委員長さんが、体調を気遣って疲れてませんかとお聞きしても決して疲れたとは口に出さなかったそうです。エレガントな一面と、鉄のような固い意志を兼ね備えたロータリアンです。

GSE メンバーは男性1名・女性3名で、職業や経歴で留萌でのホストファミリーの希望と一致しました。我が家にはボルボに勤務しているカミラさんがホームステイすることになり、事前に写真や経歴をいただいておりましたので、留萌駅でお会いした時には、初対面のような気がしませんでした。また知人に13年前に購入したボルボの車を、大切にキズ一つなく乗っている方がおりましたので、我が家からミーティング先のホテルまで、カミラさんにも乗っていただきました。やはり自分たちの作った車を、遠い極東の日本で見ることができ、実際に乗れた事も喜んでもらえました。

西谷コーディネーターからは、食べ物の好みの情報も得られましたので、夕食のメニューの参考になりましたし、カミラさんはリンゴも好物で、毎日3個は食べると聞きましたので、地元増毛のリンゴではありませんが、青森産のリンゴを美味しいと食べて下さいました。

ホームステイ先での夕食は、2回しかありませんが、我が家にはリーダーのカトリーヌさん、通訳をお願いした地区委員のトーキル先生（札幌南 RC）にも来ていただき、カミラさんも言葉の問題が無くいろいろな話題で話が弾み、国稀と和食・ワインで洋食と楽しい夕食になりました。トーキル地区委員さんとは WCS のタイ検証ツアーで一緒させていただいたのがご縁で、5日間も留萌でお世話になりました。

今回、スウェーデンからの素晴らしいメンバーともお会いできましたのは、第1グループ各クラブと、滝川ロータリークラブさんの協力、さらに地区 GSE 委員会のご指導のお陰です。ひとつ残念で申し訳なかったのは、GSE 受入の間に会員ご家族のご不幸が続きました。しかし両会員とも与えられた役割を断ることなく実行して下さい、本当に頭の下がる思いで一杯でした。

6月12日のスウェーデン派遣・日本チームの帰国報告会に出席しますと、ガバナー補佐としての任務を終えることとなりますが、ふり返ってみますと多くの皆様のお陰で、なんとかここまでくることができました。本当に幸運なことばかりで、今までのロータリーでの経験で、無駄になったものは一つもありませんでした。心から皆様に感謝して終わりといたします。「誠に有り難うございました。」

海外研修生を迎えての感想

留萌ロータリークラブ

関野 政人

二回目の経験ですが、余り構えないでお迎えしようと思っておりました。27歳のデニス・ラーセンという好青年です。

大変勤のよい青年で私たちの考えを先取りしていただき思いは通じたのですが、彼にとっては大変気疲れする期間だったと思います。

私も、言葉がまったく理解できなく少々心配をしておりましたが、めったに無い出会いでもありませんし、ここは同じ人間同士、心が通じると信じる達観の自然体でお迎えしました。

私と妻の老後の住まいとして用意した二人暮らしの中に、家族か親戚の息子のような生活を経験していただきました。

私たちには、それしか出来なかった訳ですが、其れはそれで、標準的な初老の日本人の生活を垣間見たのではないかと考えております。

幸い息子が隣組ですので、その友達にも大変助けていただきました。

特に、福祉関係、若者の考え方など親しく意見交換出来たらしく、普段の生活からは得ることが出来ない感慨があったらしく大変感謝をされました。

若者たちの心を通じようとするバイタリティーには、同じ日本人かと思うくらい物怖じしなく堂々としていて感激しました。

しかしながら、言葉の通じないことのもどかしさは、情けなく悲しくなります。

日本人の閉鎖性の問題もあるのですが、最近海外に旅行する度に感じますが以前に比べ日本語の通じる世界が急速に狭く感じるのは気のせいばかりとはいえません。

教育も含めて英語の理解度、国際力などの向上活動など真剣に考えなければと思います。

平成22年6月3日

GSE 受け入れ、ホストファミリー感想

留萌ロータリークラブ

対馬 謙一

今回のGSEチームのホストファミリーとして、地元観光協会の会長をしている関係から、チームの中からサラ・ストールさんを希望させていただきました。

留萌とスウェーデンと、観光を通じての交流に将来繋がればという思いもありました。親子ほどの年齢差があり来留されるまでは期待と不安が相半ばと言った感じで、最初にお会いした印象は、年齢よりしっかりとした大人の女性と言った雰囲気、さすがにGSEに選ばれた方と納得いたしました。

実際にも礼儀正しく、気配りの素晴らしい、むしろ日本的な心を感じさせる女性であり、すぐにうち解ける事が出来ました。語学に不安があり心配していたコミュニケーションも彼女の理解力で何とかなり、思っていたより会話も弾み、彼女の家庭のことや、福祉先進国スウェーデンの年金や医療制度の日本との違い等についても理解出来、有意義な時間を持てたと感謝しております。また家での食事の時は、食事の準備や、食後の後かたづけも自発的にお手伝い頂き、しっかりとした家庭でお育ちになったと

言う印象を強く感じました。特別な事はできませんでしたが、むしろ普段の日本的な食生活や生活習慣をありのままに見てもらい、接することの方が良かったと思いました。終わってみれば楽しかった事ばかりで、機会があれば、又受け入れたいと思いました。

ただ一つだけ要望としては、来日するに当たっては、最低限の日本語を学んでくることも必要であると感じました。最後に今回のGSE団員皆さんが留萌での体験や研修が思い出多く、有意義な日々で有り、いつまでも忘れずにいてくれる事を祈り、感想とさせていただきます。

2010年6月11日

ホスト・ファミリーをお引き受けして

留萌ロータリークラブ
二ノ宮 清信・恵美子

4月9日から13日までの5日間、我が家にスウェーデンのエーテポリから絶世の美人がホーム・ステイをしました。

ロータリークラブのGSEメンバーとして来日したカタリーナ・ブラーツさんです。

我が家にとっては4度目のホスト・ファミリーの体験でしたがヨーロッパからは初めてのお客さんでした。

スウェーデンからと言う事で言葉の事や、生活習慣の違いなど色々心配をしましたが、4月9日、留萌駅に降り立った彼女を迎えて不安はすっかり消し飛んでしまいました。

彼女の気さくさや私たちへの心遣いにすっかり感激をし、更に絶世の美人と言うこともありホスト・ファミリーを受けてよかったと感じる程でした。

しかし初対面の際に「和英辞典」を引き引きしながら、よく分からない英語で話しかけたら、少しは英語が分かると勘違いをされ英語でペラペラと話しかけられ大変な目にあいました。

特に車を運転中にはペラペラと問い掛けられてもサッパリ分からないですし辞書も引く事も出来ず返事が出来なくて、車の中がしらけて気まずい雰囲気になってしまった事もありました。

カタリーナは28歳とまだ若いのですが、過去にローターアクトのスウェーデン全国の会長も務めていたそうですし、アメリカ合衆国のスウェーデン大使館にも勤務をした経験があり、その際にはワシントン市の「桜の女王」にも選ばれた経験があるとの事で美貌と学識を兼ね備えた女性でした。

また、お酒もかなり強いようでしたのでワインを買ってやっても、お酒が全然ダメな私達に遠慮してか家では殆ど飲みませんでした。

私も少し飲めたらお相手できたかなと残念ですし、彼女に可哀想な思いをさせたかなと思っています。

夕食後、彼女と私達夫婦の3人だけで余り言葉も通じず時間の潰しようがないので、外国映画のDVDを借りてきて3人で映画鑑賞会をしました。

映画はアクション物でしたがカタリーナは楽しそうに見ていました。映画は大分気に入ったようでした。彼女が映画を見ていた時間は、私達も彼女に気遣いしなくてもよい気が休まる時間でした。

私達にとって悪戦苦闘の5日間でしたが、終わってみれば貴重な体験をさせて貰えた5日間であり、良い思い出を沢山つくる事が出来た5日間でした。

留萌の海を見て目を輝かせていたカタリーナですので、今頃はエーテポリの海でセーリングを楽しんでいる事でしょう。

エーテポリの青い空の下で、明るく笑っている彼女の姿を思いながら、彼女の明るい未来に乾杯をしてペンを置きます。

滝川ロータリークラブ
国際奉仕委員長 坂本 和繁

滝川クラブでの受入は2泊3日、うちホームステイは1泊と短いものでしたが、思い出に残る3日間でした。今回は、国際奉仕委員長として3日間のスケジュール作成、歓迎式の準備や訪問企業の選定などを担当し、3日間チームに同行。かつ、ホストファミリーとして受入をしたため忙しい3日間でもありました。滝川での受入が最終的に決まってからそれほど日が無く、訪問企業の選定などもさほど時間をかけずにしたため、チームの皆さんが興味をもって参加していただけるか心配でしたが、訪問先や通訳を依頼した滝川国際交流協会の職員さんのおかげで、参加者からは「とても興味深いカリキュラムだった」と言っていただき、目的は達成できたと思います。

我が家に泊ったカタリーナさんは20代後半の若い女性。会話が弾むかどうか心配だったため、ホームステイ当日は私の事務所の職員でカタリーナさんと年齢の近い女性二人を自宅に呼び、一緒に食事をしました。目論見どおりに盛り上がり2次会と称して皆でカラオケスナックに……。帰宅は午前0時を過ぎ、充実した国際交流ができたと思います。

心残りなのはやはり、言葉・コミュニケーションです。スウェーデンの人口は少ないですが、1人当たりGDPは日本よりはるかに上で福祉も充実しているとあって、聞いてみたいことも色々あったのですが、日常会話は何とかなるものの、聞きたいこと、伝えたいことの三分の一もできなかったのではないかと思います。日本の税制についての質問にも税理士でありながら上手く答えられなかったりと、今から考えると受入のための情報収集など準備を全くしていなかったことに若干の後悔が残ります。が、言葉はあまり通じなくとも（困った時はYAHOOの翻訳サイトに助けられました）、相手を怒らせたり困らせたりしない程度に何とかなるものだと自己満足しています。

また、受入前に年末の大掃除に匹敵するぐらいの掃除をしましたが、泊っていただいた部屋は3月まで長男が使用していたため、いくら掃除しても余りに汚く、床と壁のクロスを張りかえました。おかげで家の中がきれいになり、家族は喜んでおります。

最後に、このような貴重な経験ができましたのは地区のGSE委員の皆さんなど大勢の方のご指導とお骨折りがあってのことです。感謝申し上げます、感想といたします。

GSE 研修生を受け入れて

室蘭ロータリークラブ
松岡 健一

2010年4月17日から23日まで、スウェーデン第2360地区からのGSE研修生を受け入れさせて頂きました。私どもは、GSEの研修生はもとより、日本語の分からない外国からの客人を受け入れたのも初めての経験でしたので、受け入れには多少の躊躇もありましたが、今回のホストファミリーの役割は、宿の提供と毎日の朝食のサービスとのことでしたので、少し気楽に（妻はそうでもなかったようですが）引き受けさせて頂きました。

受け入れた研修生は、今回黒一点のデニス・ラーセンさんでした。27歳で、経済学を専門とし、現在はNPOのJunior Achievement Young Enterprise Swedenで、学校関係の仕事として、起業精神を学生に呼び起こす啓発活動をしているとのことでした。語学力の不足から彼の仕事の内容を十分には理解できませんでしたが、伺ったところ、起業精神を呼び起こすための教育をする教員（主として高校の教員？）を教育する立場のようでした。大学卒業して数年の、起業の実績もない（？）青年が、そのような仕事をすることに驚かされましたが、楽しく、また周りから評価されながら働いている様子でした。

彼の印象は、明るく、礼儀正しく、優しい好青年との印象でした。我が家では、毎朝7時半頃起床し、シャワーを浴び、一緒に朝食をして、9時過ぎに出発し、8時～9時に帰宅、少し談笑し、10時頃には就寝という、規則的な生活でした。このスケジュールは、私自身が不調法で、夜の街に出歩く習慣がないものですから、彼にもその機会を与えなかったことが原因かも知れません。他のホストファミリーのところではどうだったか、今になって心配しております。

今回の室蘭での研修は、プログラムが夜まで盛沢山で、当初二晩の予定であった我が家での夕食も、結局一晩のみとなり、心配しながら、準備をしていた妻は、腕の振るいがいがなく、調子抜けのようでもありました。また、家族としてデニスさんと向き合う時間も限られ、期間中唯一の休日と毎日帰宅から就寝までの短い時間でしたが、その休日も、彼の希望により、伊達クラブの栗本ファミリーに世話をお願いしましたので、なお一層短いものとなりました。家族として彼と一緒に外出（？）したのは、最終日に壮瞥にある「北の湖記念館」を案内したことのみにあつたかと思えます。彼は、日本の文化として剣道や相撲に興味があるとのことでした。剣道は、室蘭に来る前に体験したので、相撲を体験したいとの希望でしたが、私がお相手をする事も出来ず、記念館を案内した次第です。大変興味深く見学しておりました。こうして終わってみれば短い研修期間でした。

GSE受け入れにあたり、お世話を頂きました当地域室蘭東クラブの村木会員を初め、多くの皆様のお力添えに感謝申し上げますとともに、デニス・ラーセンさんの今後のご活躍を祈りながら、受け入れ体験記とさせて頂きます。

GSEの一員を受け入れて

室蘭北ロータリークラブ
野村 滋

2010年4月17日～23日まで2360地区（スウェーデン）からのGSEメンバー5名のうち、カタリーナ・ブラッドさんのホストファミリーの役をおおせつかりました。

ブラットさんは Venture Cup という事業計画策定という分野に於いては、世界でも大きな会社としていられている会社のマネージャーで、事業計画の評価と、新規事業者に対する講義や指導を行う仕事をなさっているということでした。

2005年 アメリカのワシントン DC にあるスウェーデン大使館で junior diplomat として勤務し、そのとき、スウェーデン大使館のサクラ・プリンセスに選ばれ、桜祭りに参加し、この桜祭りは日本とアメリカの友好記念の祭りで、その時に日本を知り興味を持ったそうです。

第9グループでの1週間のプログラムはおおまか、次のごとくでした。4月17日(土) 夕方 室蘭着 ホテルで歓迎夕食会 ホスト宅へ。18日(日) 伊達ロータリークラブ 藍染、有珠山、ウィンザーホテル等観光、午後登別へ 登別グランドホテルで入浴、夕食、ホスト宅へ。19日(月)が1日休養日で、室蘭市内の名所を案内しました。20日(火)は個別研修で、ブラットさんと室蘭ロータリークラブの松岡健一さんのお宅に世話になっているデニス・ラーセンさんの2人は、室蘭工業大学地域共同開発センターにて研修、白樺の樹から採取するベチュリンという新薬の開発研究過程とシプリサイクルプロジェクトの進捗状況の講義を受けました。昼食は室蘭北ロータリークラブの例会に参加（この時、カミッラ・プラス・マンネルストールさんも参加 3名）し、卓話を聞きました。午後も室蘭工業大学で研究設備を見学し、研修を終了しました。夕食は我が家で、「室蘭やきとり」をごちそうしました。

21日(水) 日本製鋼所、PCB 処理施設、新日本製鉄見学、夜は室蘭東ロータリークラブ夜間例会
22日(木) 室蘭ロータリークラブ主催の文化交流、民俗資料館、地球岬見学、 昼：室蘭ロータリークラブで例会 午後：市長表敬訪問、その後、證誠寺で茶道・華道研修をし、夕食は点心懐石料理でお別れパーティを兼ねました。

ホストファミリーを引き受けましたが、今回のスケジュールでは、夕食の世話はわずか1日でした。朝食の準備だけで良かったようで、家内は負担を余り感じていなかったようです

充分なおもてなしができたかどうか気になりますが、楽しい1週間でした。今後のGSEプログラムの進展を期待します。

2009—2010年度RI第2510地区 第4・第5グループ合同IMにて

2510地区第5グループ

ガバナー補佐 江口 洸

第4・第5グループ合同のインターシティ・ミーティングを去る4月24日、札幌プリンスホテル国際パミールに於いて開催致しました。

第4グループ386名、第5グループ357名、合計743名の会員に対し483名の会員の方が登録して頂き、盛会裏に終了することが出来ました。熱心なロータリアンの皆様及び各クラブ会長、幹事の方々の御協力の賜と深く感謝申し上げます。

尚、渡邊恭久ガバナーは韓国RI第3700地区の地区大会参加の公務の為今回は出席出来ませんが、心強い励ましを頂いております。

2009—2010年度RI第2510地区の第4・第5グループ合同IMのテーマ「ひびきあう大地」の基、阿部哲夫IM実行委員長の開会の挨拶に始まり、来賓の皆様の紹介、岩崎秀晴RI第2510地区パストガバナーのお言葉、三澤龍子IMホスト札幌清田RC会長の歓迎の挨拶が行なわれました。

基調講演には札幌出身で音楽家として著名な桐朋学園大学音楽部教授、木村俊光氏より「共存共鳴」と題し、ご見識溢れるお話を頂き大いなる感銘を受けました。

基調講演の感動も覚めやらぬ間に、ふるさとの四季・世界歌めぐりと題した特別コンサートが始まり日本の音楽界を代表するソリストによる素晴らしいハーモニーに会場全体が溢れんばかりの幸福感に包まれ、ロータリアンの皆様の心が癒されていく様子がありありと感じられました。

IMも後半に入り、諸事お知らせ・休憩を挟んで来道中のGSE RI第2360地区スウエーデンチームの紹介となり、沼舘葉RI第2510地区GSE委員長が挨拶を行い、石丸修太郎RI第2510地区GSE副委員長がGSEチーム5名の紹介、初めにチームリーダーを努めるカトリーヌ・アンダーソンさんの紹介に始まり、サラ・スタールさん、カミラ・プラス・マンネスタルさん、デニス・ラーセンさん、カタリーナ・ブラットさん、と4名のメンバーを紹介致しました。

続いてスウエーデンチームの自己紹介となりました、チームリーダーのカトリーヌ・アンダーソンさんはプロスという町に生まれ、衣料品・ファッション・ホームファニッシング関係の仕事をされ、1993年にロータリークラブに加入され、クラブ会長を努められ、今回日本に来られた事を光栄に思っているとお話になりました。サラ・スタールさんはポールバイという町に住まれ、観光協会でお客様誘致の仕事なされ、時間があるときは主に海で過ごし、マリンスポーツを楽しんでいると話されました。

カミラ・プラス・マンネスタルさんはキャプテンバーグ町に住まれ、ボルボ社の工場マネージャーを努められ、アウトドアスポーツが大好きで、明日ニセコに行くのを非常に楽しみにしていると話されました。デニス・ラーセンさんはアルヘルムという町に住まれ、企業家を育成する組織のマネージャーを努められ、一年中スポーツを楽しまれ、今回初めての日本で相撲を試されたことを話されました。カタリーナ・ブラットさんはイエテボリという町に住まれ、新しい会社を興すベンチャーカップ社に努められ、音楽を趣味とされ、日本との接点はアメリカに居られた時に桜祭りで桜の女王スウエーデン代表に選ばれたことがあり、今回初めての日本を楽しみたいと話されました。一時ではありますが、ロータリアン同士の心のふれ合い、思いが通じた様に思われます。

岩城財団委員長RI第2510地区パストガバナーから講評を頂き、閉会の言葉、点鐘を荒紀男RI第2510地区第4グループガバナー補佐が行い、「ひびきあう大地」をテーマにした2009—2010年

度R I 第 2510 地区第 4・第 5 グループ合同 I Mをつつがなく見事に幕を閉じることが出来ました。尚、予め用意しておりました、そらぷちキッズキャンプの募金箱を設置させていただき、ロータリアンの皆様をお願いしたところ、5万7千4百円が集まりました。ご協力頂いた皆様には厚くお礼申し上げます、まことにありがとう御座いました。

閉会后、親睦会が開催され、中田輝夫 I Mコ・ホスト/札幌 RC 会長の開会の挨拶で始まり、特別ゲストの山形酒田市ロータリークラブの会員であり、声楽家の池田美保氏のミニコンサートで音楽の世界に溶け込み、優雅で素晴らしい歌唱で華やいだひと時を皆様と共有出来、親睦交流が自然と皆様の心の中に浸透していくのが随所で見られ私も心が清らかになったような気が致しました。

GSE チームリーダーとしてスウェーデンを訪問される丸山淳士 R I 2510 地区パストガバナーより派遣に係るお話があり、今回は福祉の先進国スウェーデンという事で介護関係に従事している方から団員を募集しまして、20 名の中から優秀な 4 名の方が選考され派遣団員としてスウェーデンを訪問されるとの事でした。続いて、4 名（鈴木洋史さん、竹内孝さん、松本かなさん、羽田野真寿美さん）の団員の方々が自己紹介されまして、携わっている仕事、スウェーデン訪問への思い等を話されました。

そしてロータリーソング“手に手をつないで”を玉井清ソングリーダーと歌う頃には会場は素晴らしい一体感に包まれました。閉会の挨拶を宮村素子 I M実行幹事/札幌清田 RC 幹事等が行い、親睦会も和やかな雰囲気の中で終わることが出来ました。

第 4・第 5 グループ合同 I M・親睦会共に来賓の皆様及び会員各位のお力のお陰をもちまして大変有意義な一日を過ごさせて頂きました。厚く御礼を申し上げ報告とさせて頂きます。

ホスト・ファミリーを引き受けて

札幌東ロータリークラブ
出倉 恵隆

このたび、2009～2010年度 地区 GSE 委員会プログラムの一環として、スウェーデン第 2360 地区よりデニス・ラーセンという 27 歳の好青年が我が家にやってきました。例会時に気軽に受け入れを了承したものの、時が近づくにつれ、どれだけコミュニケーションが図れるか、この限られた滞在期間で我が家の雰囲気に親しみを持ってもらえるだろうか、はっきり言って戸惑いと不安な日々を過ごしました。

しかし、デニスと初めて出会った歓迎会、そんな思いは一瞬にして払拭され、新鮮な出会いの場となりました。彼はとても礼儀正しく、心の底から友好的だったのです。

我が家では数日前よりスウェーデン語の本を買い、一応(?)母国語で歓迎しようと、彼が来るのを心待ちにしていた二人の息子(高校二年・中学三年)は照れながらも一生懸命、彼が家にいる間、ずっと身の回りの世話をし、そして、その中で互いの国の違いを学び、併せて学校のことや家族のこと、ガールフレンドのことまで、話題は尽きることなく友情を深めていきました。

滞在最終日、集合時間がいつもより遅かったので、デニスに「日本の中学校に行ってみる？」と尋ねたら、「ぜひ！」というので、息子と妻と三人で登校してもらいました。

デニスは、カメラを持って約十分程の通学路を一緒に歩き、学校の中へ案内されると、他の生徒達

がデニスを見つけるなり大はしゃぎ。一躍、羨望の的となり教室で皆と仲良く写真を撮るなど、大変な盛り上がりだったそうです。後日、これが一番楽しかったと彼が言ってくれました。研修中でもあり、子どもとふれあう機会が少なかったから緊張がほぐれたみたいです。

今回、GSE のホスト・ファミリーを通しての体験は、我が家にとって貴重な宝ものとなりました。本当に素敵な出会いをありがとうございました。

札幌東ロータリークラブ
朝倉 正人

このたびGSE委員会と財団委員会(クラブ)のご依頼でスウェーデンチームのカミュラ・プラス・マネスタールさんの1週間ホストファミリーをさせて頂きました。

今迄に交換留学生(高校生)を何回か受入れの経験がありますが、職業を持った方の受入れは2回目です。久しぶりに家の中がにぎやかになりました。

カミュラはボルボ社の商品開発課長ということで、自動車関連の事に大変興味をもち、積極的に工場見学等の研修し、観光もし、そして人との交流の中で一回り大きくなって帰国したと思います。短い滞在期間でしたが、手振り、日本語、英語でどこまで通じたかわからないが、日本のこと、札幌のことを語りました。おそらく通じていないと思いますが・・・

4月25日に長女がオーストラリアから帰国し、夕食時にはワインを飲みながら英語の会話が続き、私共は中々理解できない中、皆が楽しい時間を過ごしました。

長女は6月1日より欧州へ出かけ、おそらく8月位にイエテポリのカミュラと再会し、又ワインを飲みながら日本の話しをしたいと思います。

札幌東RCでは青木功喜会員、星野恭亮会員がかつてチームリーダーとして団員を引率し、体験の中で国際親善、文化等多くの分野で学習したと聞いております。

今回も日本人との交流、社会文化、会社情況、相互理解など様々なことを習得したものと考えますし、ロータリアンとその家族との交流の中で友好を深め永続的な友情につながれば良いと思います。いずれにしてもこのプログラムは有効であり素晴らしい事業だと思います。御苦労ですが今後も継続して頂きたいと思います。

このプログラムの進行に対して委員会の方はじめ各関係者の方に御苦労様でした。

「GSEプログラムのホストファミリーとして参加して」

札幌東ロータリークラブ
井上 善博

平成22年4月2日に千歳に到着したスウェーデンの5人のGSEメンバーは、約3週間をかけて北広島RC、留萌・滝川RC・室蘭東RCでのスケジュールをこなし、4月23日に最終訪問地の札幌東RCに移動した。

室蘭から到着したメンバーは、札幌第一ホテルで行われた札幌東ロータリークラブの歓迎会の後、それぞれのホストファミリー宅へと移動した。我が家にホームステイしたのは、カタリーナ・ブラッドさん。スウェーデンでは、企業企画支援を業務とするキャリアウーマンでスウェーデンロータリー

アクトの会長を務めた経歴の女性である。彼女は、母国のスウェーデン語、英語、ドイツ語の3ヶ国語を話し、知識欲旺盛な女性で、アメリカ合衆国での留学を経験し、世界の多くの国を訪れているが日本は初めての訪問だそうだ。

カタリーナさんの北海道の印象は、母国スウェーデンと気候風土が似ており、住んでいる人の気質なども似ているような感じがするとのこと。

日本人に対し、「侍」をイメージするような真面目？な国民性を想像していたが、来道して大勢のロータリアン等に接し、意外と面白くイメージと違ったとも話してくれた。

札幌では、2日目に第4・5グループIMでの懇親会出席し、来札メンバーによるスピーチとプレゼンテーションそして3日目からは、順次小樽・小樽南RCの交流会参加、札幌西RC例会参加、札幌市長表敬訪問、メンバーが希望した職場訪問などのスケジュールをこなし、精力的に交流を図っていた。

多忙なスケジュールの中で疲れが出て当然なのに、「疲れていないですか？」との問いには、「少し疲れている。でも大丈夫」と応える。本当にタフな女性である。

ホストファミリーとして心がけたことは、カタリーナさんにリラックスしてもらう環境の提供である。といっても、特別なことができるわけではなく、ゆっくり休んでもらえる環境を作ることと、家族での団欒を心がけた。1週間のホームステイのうち、家族との夕食の機会は3回、気候・風土、習慣いろいろな事を話題にしなが、お互いの国の事を語り合い？楽しく、くつろいだひとときとなった。

言葉は通じなくても大丈夫と人は言う。でも、やはり語り合うには、お互いの言葉が解った方が良いに決まっている。送迎の時間は、私の片言の変な英語のせいで、頭を使い、かえって彼女の疲労を深めたに違いない。スムーズに会話ができないとなかなか「間」が持たない。でも、沈黙の時間は、彼女にとって、かえって頭を休める良い時間になるに違いないと、苦笑しながら自分に言い聞かせていた。いつかまたこのような機会が巡って来たならば、語り合えるようになりたいなどと思いながら過ごした一週間だった。

今回は、幸い2年前にタイから高校留学をしていたタイ人の娘が里帰り？をしていたので、彼女が居る時にはコミュニケーションがスムーズで、とても楽しく、心からの交流が出来たように思う。カタリーナさんは、感性も良く、たどたどしく少ない会話でも私たちの歓迎の気持ちや、楽しんでもらおうと考えていることを汲みとってくれたようだ。

帰国してからまもなく電子メールを送ってくれた。まずは、感謝と楽しい経験だったこと、スウェーデンに来てもらいたいこと、帰国して2週間、すぐにでも日本に戻って皆に会いたいこと、再びロータリーアクトの会長に選任されたことそして家族の近況等を綴ってくれ、最後に、これからも長く交流を続けていきたいとも書き加えてくれた。またひとり、世界のネットワークが広がった。この機会を作ってくれたRCに、改めて「感謝」を感じる瞬間であった。

「ロータリー財団の研究グループ交換（Group Study Exchange：GSE）プログラムは、事業と専門職務経験の浅い若い人々に、文化と職業上のまたとない国際交流の場を提供すること。その目的は、若い職業人が地域社会のニーズと国際化の進む職場のニーズに対処できるよう専門の技量と指導力を磨かせることにあり、一般にGSEチームは24歳以上40歳未満の4名の非ロータリアンと1名のロータリアン・リーダーで構成され、海外に旅行し、各種の研修活動に参加するという広大かつ厳しいプログラム」と記されている。

具体的活動としては、次の項目が挙げられている。

● 職業活動：参加者は、他国での職業の実践の様子を視察し、それぞれの分野におけるアイデア

を相互交換する。

- 文化体験：他国、他国民、制度について学び、世界各地の多様な文化への理解を推進することができる。
- 親睦の機会：チームメンバーとホストが、親睦と善意の精神で語り合い、意見を交換し、生活を共にして、互いの問題、抱負、地域への関心事を思いやり、永続的な友情と理解を培う。
- ロータリアンの参加：専門職務に従事し、人生の形成期にある若い人々に、他国と異文化の中で、その職業についてロータリアンの経験豊かな展望を提供しながら、同時に、研究チームを派遣し、受け入れ、その教育を共に経験する機会をロータリアンに提供する。

札幌東RCでは、GSEプログラムと青少年交換プログラムは、国際奉仕の人的交流活動の重要な柱と位置付けをしている。特にGSEは、「50年の歩み 1959-2009—チャーターメンバーと歴代会長が語る50年の歴史—」の中でも語られているが、GSEとの関わり合いを深化させる方向が望まれているようである。これは、人材のグローバル化を進める我が国の方向性にも適ったプログラムであり、様々な国々との相互理解を深め、特に北海道を知ってもらおう機会を創出することが期待できるのではないだろうか。

ホストファミリーを引き受けて感じたこと、それは、英語力が乏しい私にとって、確かに言葉の壁があり、折角の親睦、交流の機会を得ながら積極的に語り合い、意見の交換など出来る由も無かった。出来るならホストとして英語会話力があればもっとお互いを知りえたのにと残念な気持ちが残った。

GSEプログラムにおいて、来訪するメンバーの内、日本語を勉強して来訪するメンバーは皆無であろう。しかし、英語はすべての来訪者の共通語となっているように思う。

このプログラムでホストファミリーが関わるのはせいぜい一週間程度のことであり、片言の英語で十分かも知れない。大事なものは、その後の交流にあるのではないだろうか。

考えてみれば奇跡的な出会いがあり、その出会いがチャンスとなって交流が続くならば、お互いの人生も豊かなものになるのであろうが、言葉が分からないために連絡が途絶えてしまうのならそれこそもったいない。現在は、このホストファミリーの経験を契機に夫婦で英会話を勉強しようという気持ちを強く抱いている。

地区で、クラブでGSEプログラムを発展的に推進するには、受入れ環境の条件作りが必要なのではないだろうか。どんなに地区委員会で提供した交換プログラムが素晴らしいものであったとしても、来訪したメンバーが提供されたプログラムを終えた後、緊張から放たれ、リラックスできる受入家庭の態勢が機能しなければ効果は半減若しくは無いものになってしまう気がする。今回のプログラムの内容に、ホストファミリーの負担を軽減するような配慮がされていたが、仮に継続してホストファミリーを依頼した場合、何人に引き受けてもらえるのだろうか？もし、問題があるとすれば何なのか？アンケート調査などでチェックしてみる必要がある。そして、それらの分析をもとに今後はホストファミリーを育てる試みも課題ではないかと考えている。例えば①言葉の教育支援活動、②国際交流の動機付けの場を提供すること、③費用面の支援などである。

GSEの目的や目標の効果を考えるとき、ホストファミリーを一部の有志に頼み込んで引き受けてもらうのではなく、多くのロータリアンが率先して参加でき、楽しく国際交流を体験できる環境作りが必要であろう。それは、一朝一夕には出来ることではないが、出来ることを実施しながらも継続した啓蒙活動が必要であろう。

最後に地区委員会の犬嶋委員はじめ今回のプログラムに関わった皆様の活動に敬意を表し、GSEプログラムの更なる発展と今後の運営がスムーズに展開されることを期待して止みません。貴重な体験をさせていただいたことに感謝いたします。

札幌西ロータリークラブ
石谷 邦彦

一年前のこと、石丸 GSE 副委員長から私共の「にせこ」にあるセカンド・ハウスに Sweden からの GSE のメンバーを受け入れて欲しい旨の依頼があった。時期は4月下旬。まだスキーができる寒い季節である。また築 20 年の古い建物でもある。

少し心配であったが1～2泊なのでお引き受けした。その後、建物の修繕などの準備をしていたところ、今年3月末突然チームリーダーの一週間のホームステイを依頼された。55 歳の女性の会長経験者とのこと。家内は怖気づいてお断りをと願ったが石丸さんの起っての依頼であり家内を説得した。

どなたかが送別会のスピーチで“ホームステイを引き受けて家がきれいに整えられた”と話されていたが我が家も同様に壁紙を張り替えたりなどした。またあわててホームステイの手引きなどを紐解こうとしたが、その間もなく彼女、Ms カトリン・アンダーションを迎える4月23日（金）となった。

予め彼女からの自己紹介の手紙と写真を手にしていたが予想どおりのエレガントで知的な女性であった。歓迎会のその場でカトリンと家内は意気投合したようである。一週間はもっぱら家内の担当と思っていた私であり、いささか安堵した。

そこで初めて習った Sweden 語が“イエッテ・ゴット=very good”である。2510 地区滞在の最後の週であり疲れているのではとの心配は無用であった。翌日のプリンス・ホテルでの IM にも元気に出かけていった。

4月25日（土）9時「にせこ」へ出発。あいにくの雨と寒さであったが、さすが北欧の人達なのかあまり気にしていなかったようだ。この日、中山峠スキー場では今シーズン最後の大回転競技大会があり、それを見てもらう予定であった。ところが峠は酷い吹雪と濃霧で視界ゼロ、大会は勿論中止。羊蹄山は全く見えない。無事「にせこ」に着いたがこの時期「にせこ」はオフ・シーズンでレストランなど殆ど close である。唯一 open の老舗のハンバーガー屋で昼食を摂り比羅夫のゴンドラで山頂までと案内したが、スキー、ボードで降りてくる若者達は居るものの上はやはり視界ゼロとのこと。あきらめて石丸さんの奨めで倶知安の美術館に、そしてサーラの希望で東山温泉に行って午後を過ごした。夕食はサミットで有名になった「マッカリーナ」へ、随分と喜んでもらった。夜はご他聞に洩れず大宴会である。

送別会で披露した石丸さんをシンボルにした夏の踊りの輪を作った。26日（月）余市ニッカ・ウィスキー工場、小樽 RC のお世話で能の鑑賞など、そして東札幌病院に。のんびりのはずが結局ハード・スケジュールになってしまった。それでも皆元気なのは驚いた。

この小旅行以来チーム・メンバーとも胸襟を開きそれぞれ理解を深めたことである。次の4日間も彼女達はいろいろ予定が組まれており、家内が送り迎えしていたようである。毎夜カトリンとシャンパンで乾杯していたが Sweden の暮らしは魅力的であること、Sweden はデザインの国であることなどを深く知ることができ、全くイエッテ・ゴットであった。

ちなみに彼女は衣料品・家具などの会社の社長であるが意外に“お嬢さん”でもあった。家内は“絶対に Sweden に行く”と騒いでいる。これまで多くの外国人との交流はあったが殆どは私の職業との関連であり、今回のような多様な職種の人達、それも Sweden の人達と膝を交えたのは初めてである。貴重な経験をさせて頂いた。心から感謝致します。タック=thank です。もうひとつグモロー=good morning.も覚えています。

4月29日の送別会に於けるカトリン・アンダーション・チームリーダーの御挨拶

Konbannwa

Dear all of you!

Today we have been in Japan for four weeks - four rich and lovely weeks in Hokkaido, district 2510. I have held a lot of speeches. Once, I forgot and lost the word - this time however, there are no appropriate words to really express our deep feelings.

We have experienced so much - vocational, geographical, cultural, social and human. We have laughed together, sometimes due to language misunderstandings - but we have also had deep, interesting talks and discussions, despite language difficulties.

We have met the most wonderful human beings and we are convinced that we have caught more than just a glimpse of the Japanese or at least the Hokkaido spirit.

And we all wish to come back here!

But as I said before, there are no words that fully express our joy and satisfaction. But I hope that you can read our deep feelings and our love for you and our gratitude in our happy hearts.

Thank you so much!

Domo Arigato Gozaimasu.

今晚は、親愛なる皆様へ

本日まで、この北海道 2510 地区において豊かで素晴らしい四週間を過ごさせていただきました。その間、いろいろな所でスピーチをしましたが、度忘れで言葉が出なかったことがありました。そして今、私たちの心の中の想いを伝える適当な言葉が見当たりません。

素晴らしい経験をさせて頂きました。職業訓練、土地柄、文化そして人々。

よく笑いました、言葉の問題による勘違いもありました。でも、言葉の壁を越えて様々なことについて幅広くお話しすることが出来ました。

私たちは、最高の人達とお会いすることが出来、間違いなく、日本の一部を見ただけではなく、少なくとも北海道の人々の精神を捕らえることが出来たと信じています。

是非、又こちらに戻って来たいと思います。

先にも言いましたが、本当に私たちの喜びと満足度を表現する言葉が見つかりません。でも、皆様方には私たちの喜びと感謝の気持ちで一杯の心と、皆様への親愛について御理解いただけることを期待しております。

誠に有難うございました。

国際ロータリー第 2360 地区 GSE 受入計画 2010 年

国際ロータリー第 2510 地区より

日付	担当クラブ	行事	摘要	日数
1 May Sat.	District 2360	Arrival	Arrive at GOT, SK-446, 21:35	Day 1
2 May Sun.	District 2360	Sightseeing Gothenburg (Paddan?) Rest & Orientation Welcome dinner		Day 2
3 May Mon.	Rotary clubs in Varberg	Intercity Club meeting & presentation Visit old fortress, museum and a special touristic area	Morning transport to Varberg	Day 3
4 May Tues	Rotary clubs in Varberg	Vocational activities: Social welfare, Homeservice for elderly and sick people, group living for demented people and group living for disabled people		Day 4
5 May Wed	Rotary clubs in Varberg	Morning free. Lunch and afternoon visit Spa resorts	Transportation to Borås at ca. 16:30	Day 5
6 May Thu	Rotary clubs in Borås	Vocational activities: Elderly care, Palliative care and home medical care, Borås municipality working situation and support for disabled people Club meeting & presentation at Borås-Östra RK Vocational activities: Elderly care, Hospice and tactile care, SHS care AB (private) working situation and support for disabled people.		Day 6
7 May Fri	Rotary clubs in Borås	Breakfast Club meeting & presentation at Borås Viskan RK Borås textile museum Sightseeing in Borås area		Day 7
8 May Sat	Rotary clubs in Borås	Weekend with host families		Day 8
9 May Sun	Rotary clubs in Borås	Weekend with host families	Transportation to Alingsås	Day 9
10 May Mon	Rotary clubs in Alingsås	Club meeting & presentation at Alingsås-Nolhaga RK Sightseeing in Alingsås area		Day 10
11 May Tues	Rotary clubs in Alingsås	Visit day care center Free time, shopping, visit at a typical café Dinner and outdoor activities at Gräfsnäs castle		Day 11
12 May Wed	Rotary clubs in Alingsås	Vocational: All day at Alingsås Hospital		Day 12

13 May Thu	Rotary clubs in Alingsås	Departure for Midterm rest	Transportation to Vänersborg	Day 13
14 May Fri		Mid term rest Quality Hotel in Vänersborg		Day 14
15 May Sat	Rotary clubs in 3-town	With host families		Day 15
16 May Sun	Rotary clubs in 3-town	A day at the Hunneberga Mountain. Walking the mountain and a visit to the Moose museum. Barbeque at Stig-Göran Larssons home with all host families		Day 16
17 May Mon	Rotary clubs in 3-town	Vocational program: Habilitation, Rehabilitation for children, School for children with hearingdifficulties and/or deafness. Sightseeing in Trollhättan: Olidanstationen and the Locks Club meeting & presentation at Trollhättan-Starkodder RK?		Day 17
18 May Tues	Rotary clubs in 3-town	Sightseeing in Uddevalla Clubmeeting at Uddevalla RK Guided visit to Pininfarina, where they build the exclusive Volvo cars		Day 18
19 May Wed	Rotary clubs in 3-town	Study visit in Trollhättan and visit to Innovatum Transportation to Gothenburg		Day 19
20 May Thu	Rotary clubs in Gothenburg	Visit the City Council & the Lord chairman Vocational activity: Dalheimers hus. Gothenburg Symphony Orchestra		Day 20
21 May Fri	Rotary clubs in Gothenburg	Vocational activities: Rare diseases, Hearing impaired. Club meeting & presentation Göteborg-Backa RK? Vocational activities: Home for elderly, Home help services		Day 21
22 May Sat	Rotary clubs in Gothenburg	Outdoor activity		Day 22
23 May Sun	Rotary clubs in Gothenburg	Visit to Marstrand		Day 23
24 May Mon	Rotary clubs in Gothenburg	Vocational activities: Ågrenska, Hospice Club meeting & presentation Göteborg-Frölunda RK? Vocational activity: Support and family therapy for families with children under 18 years of age.		Day 24

25 May Tues	Rotary clubs in Mölnadal	Mölnadal town hall and Community		Day 25
26 May Wed	Rotary clubs in Mölnadal	Guided tour at Gunnebo Castle IKEA		Day 26
27 May Thu	Rotary clubs in Mölnadal	Vocational study of a how social welfare works on a community in the archipelago, arranged by Ale RK. Farewell Party		Day 27
28 May Fri	Rotary clubs in Mölnadal	Club meeting at Mölnadal RK Visit Astra Zeneca Preparation for departure		Day 28
29 May Sat	Rotary clubs in Mölnadal	Departure	Depart GOT, SK-437, 12:40 Delivery time 11:00 at Landvetter airport	Day 29
30 May Sun		千歳到着		Day 30

GSEスウェーデンでの記録

国際ロータリー第2510地区派遣チームリーダー

丸山 淳士 (PDG)

札幌真駒内ロータリークラブ

4月29日にスウェーデンチームの送別パーティと私たちの壮行会が盛大に開催され、翌日、新千歳まで地区GSE委員の皆様へ重い荷物共々送っていただきプログラムが開始されました。

成田で一泊し、コペンハーゲン経由でスウェーデンの第2の都市、ヨーテボリに到着したのは現地時間の午後10時を過ぎていました。空港に3名の現地GSE委員の方々が出迎えに来ていただきホテルに直行しました。

翌日、GSE委員長のクリスター・ウェッケさん、地区ガバナーエバ・パーソンさんがこれからのプログラムの説明を兼ねて夕食をごちそうしてくれました。

時差ぼけ解消の2日間はあるという間に終わり、最初のプログラム、ボールベリーへと移動しました。到着後落ち着くまもなくボールベリー・ロータリークラブ例会にて最初のプレゼンテーションをしました。緊張の中順調にプレゼンテーションを終え、市内を観光してそれぞれのホストの家庭へと向かいました。

ここは、スウェーデンチームメンバーのサラさんの勤務地であり、サラさんの会社の社長さんが、このクラブのロータリアンで私たちの案内役でもありました。

翌日から各自分散してそれぞれの実地学習が始まりました。日本では連休ですがこちらは平日です。どの施設に行ってもゆったりと時間が流れていて、人はほとんどいません。日本のようにどの施設も満杯で人手が足りなく走り回っているような事態には一度も遭遇しませんでした。

家庭では7時から朝食と言っても7時までは人の動く気配はありません。7時にご主人が台所に来てこそ朝食の準備です。どの家庭もほとんどご婦人が朝食の用意はしません。寝ていて起きてこない家庭がほとんどです。起きてきても自分の朝食を作るだけで客やご主人の用意はしません。

朝食はどの家庭もいつもだいたい同じで、紙パックのヨーグルトを深めのさらにジョーっとたっぷり入れ、そこに果物の缶詰やシリアルをガバーっと入れるだけです。1分で朝食の準備は完了です。ジュース、牛乳も紙パックからコップに入れるだけです。クラッカーのような薄い硬いパンと食パンは5ミリくらいに薄く切ってチーズやバター、ジャムを大量に塗り黙々と食べます。野菜はほとんど出ません。ミニトマト3個、ピーマン、キュウリそれぞれ1個くらいで4人分の朝食になります。どの家庭にもチューブに入ったら子マヨネーズソースの様なものが必ずあって、それをパンや堅めのせんべいのようなパンに塗って食べます。

昼食もだいたいバイキング方式で大皿から好きな物を取って好きな飲み物で済ませます。夜のごちそうはスープか肉またはソーセージの煮込みが最大の料理です。自慢のようです。毎日毎食必ず小さなジャガイモの皮ごとまるゆでした物とシャケがでます。

食事の後片付けは男性がします。

日常生活でも女性は外で働いており家事はほとんど男性がしています。庭の手入れも男性の仕事で、別に苦にしているようです。・・・スウェーデンに生まれなくて良かった！5日には次のボロースへ移動です。

ここは、スウェーデンからのチームリーダー、カトリン・アンダーションのホームグラウンドです。6日にボロース・エストラRC例会に出席、プレゼンテーション後それぞれの実地学習です。翌日7日午前8時からのモーニングクラブ、ボロース・ビスカンRC例会に出席、プレゼンテーション後、

ボロースの市内見学です。ここは織物の町で、織物博物館などを見学しました。8日と9日の土日は週末休みなのでゆっくりできるかと思ったら、ぎっしりとお楽しみプログラムが組まれており、日曜日にはリンネ・マルシェンという遠足に参加、男性は14キロ、女性は9キロの山歩きです。膝はがくがく、足の筋肉はひきつり彼らの一歩は私たちの3歩、いくらゆっくり歩いてくれても追いつきません。

14キロ完歩のメダルを授与されました。

ボロースではスウェーデンチーム・リーダーのカトリン・アンダーションさんのお宅でスティ先のホストを交えた夕食パーティーを開いてくれました。

ホームスティ先でのPCのネットへの接続にみんな苦労しました。

どの家庭にもネット接続環境はありましたが、パソコンは当然のことながら日本語に対応していません。こちらから持参したパソコンに接続しなければなりません、女子隊員の2人のPCには無線LANの受信装置が内蔵されておらず有線接続でなければなりません、スティ先のコンピューターに接続しているケーブルを抜いてこちらに接続するなど常時使えないことがたびたびありました。

私も、すんなり接続できたのは最初のスティ先だけでこの時は無線LANでIDを入力して貰って大丈夫使用できましたが、次のスティ先からは難行苦行が続き、とどめはヨーテボリに戻ったスティ先がサマーハウスという絶望的な場所での1週間でした。

北海道で言えば廃業した「菅野温泉」のような山奥で分明とはほど遠い所だったので。このような状況はあらかじめ想定されるべきであったと反省しました。

後で日本人の留学生に会ったときに、1週間或いは1か月間使用できるUSBモバイル受信機が安く手に入ることを知り、早速1週間分のものを買いましたが、ものの2日間でタイムアップしてしまいました。6,000円くらいでしたが。

次回のGSEプログラムで派遣先が決まったら、派遣先の国でこのようなものが手に入るかどうかを調べて、あらかじめ1か月使用できる契約をして派遣員に渡すことがベストと思いました。

ホームスティ先で、宿泊、食事、生活、送迎などのすべてを提供されかつ、ネットも無料で使用させて貰うのは甘え過ぎとも思えました。

スウェーデンでは5月13日がキリストの降臨祭とかで全国的休日です。そのため13日はプログラムもなく、13日、14日と中間休養ということで、ホテル宿泊となりました。クオリティ・ホテルというリゾートホテルでしたが、かなり低クオリティではありましたが、当然のごとくネット接続は不能でした。

この休みを利用して、一同余分なものを郵便局から送ることにしました。その帰り道でみんな米に飢えていたのでタイ料理を食べて鋭気を補給しました。

16日は日曜日で、夕方バーベキューパーティです。メンバー全員とスティ先のホスト、カトリン・アンダーションさん、カミラさん、カタリーナさんも参加してくれました。

17日からは3-タウン地区ということで、ウデバラ、トロハッテン、アリンゴスのロータリークラブでの研修です。

ここでは、私のためのプログラムも用意されていて、その地区で婦人科の診療所を開設している婦人科医が彼の診療所、彼の自宅に招待してくれて、昼食などをごちそうになりながらの楽しい研修をしてくれました。

17日からは、地方での研修を終え、やっとヨーテボリの都会進出です。ここでは、市長を訪問したり、コンサートホールでの音楽鑑賞もあり都会らしい雰囲気や久々に味わうことができましたが・・・

私のホストは息子さんが7月に彼のサマーハウスで派手な結婚式を挙げるそうで、そのためサマーハウスの手入れのためそちらに住んでいるとのことで、私もそのサマーハウスのゲストハウス（名ば

かりで木造物置)に1週間住むことになってしまいました。

彼は、スポーツマンで彼の考案したマット・カーリングを日本にも広めるために日本にも何度か来ているとのこと。天皇のスウェーデン来訪の折、直接天皇陛下と話をしたとか、彼のサマーハウスには長嶋茂雄も来たとか自慢しておりました。・・・実は彼はスウェーデンGSEチームリーダーとして来日する予定の人でした。

体調不良と言うことでリーダーを降りたことになっていましたが、すこぶる元気いっぱいでも病気の病の字も感じ取ることはできませんでした？

最後はヨーテボリ郊外のメレンダルで、ヨーテボリ空港に近いところでした。アステラ・ゼネカの大会社に勤務し、ヨーテボリ大学の助教授のお宅に最後のホームスティとなりました。小学6年生と3年生の男の子がいて久しぶりにのんびりしたホームスティでした。

メンバー全員いろんなホストに出会い、それぞれ一喜一憂の1か月でしたが、チームワークも非常によく、プレゼンテーションの役割分担なども適材適所で存分に才能を発揮してくれました。

交響曲で言えば、第一楽章担当が松本かな、第二楽章が羽田野満寿美、第三楽章が竹内武、第四楽章が鈴木弘。柔道で言えば先鋒が松本、次鋒羽田野、副将竹内、大将鈴木です。

松本隊員が流暢な英語で聴衆をぐっと引きつけ、羽田野隊員が独特のゆったりした話しぶりで聴衆の笑いを誘い、竹内副将がスウェーデンで学んだ手話と日本の手話の違いを熱演して場面を転換、最後に日本の「京都」出身鈴木が締めくくるというまたとないチームワークで、どのクラブの会員からも「すばらしい!!」との賞賛の言葉をいただきました。ホームスティでなければ経験できなかったスウェーデンの人柄、生活ぶり、それに基づいた福祉のサービスを肌で感じ、またとない経験になったと思います。

ロータリーでなければこれほどの研修は決してできないと実感しました。

メンバーも会った瞬間から家族の一員としてなんのわだかまりもなく受け入れてくれるロータリアン気質に触れ、ロータリー家族の暖かさを肌で感じ取ることができました。

委員の皆様、地区の関係の皆様、本当に有り難うございました。

スウェーデンのロータリアンも口々にGSEプログラムはすばらしいプログラムだと賞賛しておりました。

この事業のこれからのますますの発展と継続を心より願い報告といたします。

GSE プログラムに参加して

羽田野 真寿美
札幌東ロータリークラブ推薦

GSE プログラムに参加し、4 週間のスウェーデン滞在で得たものは言葉では言い尽くせないほどの貴重な経験でした。まず、福祉に携わるものとして福祉先進国で様々な施設を見学できたことを今後の職業に生かしていきたいと思ひますし、このような機会を与えられたことに非常に感謝しています。そして、多くの人びととの出会いから異なる文化を学び、刺激を受けることができました。同時に文化や国は違っても共通するもの—相手を理解しようとする姿勢がコミュニケーションの一步 を体感することが出来ました。これは、今後の私の人生を変える素晴らしい出来事になると思ひます。

また、今回の研修ではブログを開設していただき、接続が出来ないときもありましたが、日々の報告を日本にいるロータリアンの皆様や職場、家族に伝えることができたのはとても良かったと思ひます。

最後に RI2360 地区、RI2510 地区、ホストファミリーの皆様、GSE リーダー、メンバー、この研修に携わった多くの皆様の協力には本当に感謝しております。ありがとうございました。

GSE 研修感想

松本 かな
札幌北ロータリークラブ推薦

1 ヶ月の GSE 研修は本当にあっという間に終わってしまいました。当初は不安に思っていたホームステイも、受け入れ家族の皆様の暖かい歓迎と心遣いで、とても楽しく、安心して過ごせました。またそれぞれの家庭生活のあり方を通して、スウェーデンの人々の暮らしや、人生に対する考え方などを知る事ができ、非常に貴重な体験をする事ができたと思ひています。

高校時代の留学生活以降あまり活用していなかった私の英語も、英語づけになると色々な言葉が脳の自分の知らない場所から自然と思い出されてきて、十分にコミュニケーションを取る事ができました。人間切羽詰ると隠された能力が活用できるのだなと実感しました。それでもやはり専門的な内容になると単語が分からず自分の思いや考えを十分に伝える事が難しく、もどかしい思ひもしました。この体験を機に、再度英語を勉強しなおす動機付けになりました。

また、各地方でそれぞれのコーディネーターが計画してくれたアクティビティーも、スウェーデンの歴史や自然に触れる事ができる内容であると同時に、これまで興味はあっても自ら進んでやる事のなかった事柄にチャレンジする事ができたので、とても有意義だったと思ひます。

職業研修に関しては、事前に受け入れ側の GSE 委員の方に伝えた自分の学びたい事、興味のある事、要望が全て網羅される内容になっており、個人研修も豊富に準備された、とても内容の濃い物になっていたと思ひます。さらに、職業研修では専門的な内容になることが予測されたので通訳を依頼していたのですが、こちらも可能な範囲で日本語通訳を準備していただく事ができ、非常に満足度の高い研修時間を過ごす事ができました。日本でもスウェーデンでも、ロータリークラブの皆さんは、私たちが満足できる研修を実現しようと本当に一生懸命であり、今後 GSE 研修への参加を希望される方も、ぜひ自分の希望や目的を明確に伝えて自分も研修に自発的に参加するという姿勢を持ち、濃厚な一ヶ月を楽しんでほしいと思ひました。

○全体を通して

渡欧当初、スウェーデンの福祉・医療を見るたび、聞くたび、日本とのサービス内容や時間の流れなどの違いに毎回、「あららら、凄い！」と驚き、感嘆し、パチクリ・パチクリ写真を撮る典型的日本人としての日々だった。

しかしある時、何故自分はこれほど驚くのかを冷静に考えた時、サービスの質の確保のために、税の負担率と税に対しての意識の違いという基本的な事に気が付いた。

スウェーデンの人達は、自分が税金をいくら納め、どのように使われているのかを把握しているのに対し、私は施設の経理の方にお任せし、いろいろと差し引かれて、それで振り込まれる給料で、毎月それなりの生活をすればいいと思っている人だったので、給与明細もあまり見ず、支払っている税金にも気を留めなくて暮らしていた。

そのためホストファミリーより、「あなたはいくら税金を払っているの？」と聞かれても、「消費税は5%だけど・・・。さて、その他はいくらなのだろう？ How much!」と、さらに巨泉風に自分に問いかけても当然答えがでない始末。

遠い昔、「納税は国民の三大義務の一つ」と、学生の頃に試験のために習った知識は未だにあるものの、所得税、市民税、道民税、国民健康保険、雇用保険、厚生年金、固定資産税、車税などなど、日本にはどのような税・制度があって、どのくらいの%で、どのくらいの金額を支払い、どのように使われているのか把握していなかった事に気が付いた。※生命保険や預貯金も委任せなのであまりわからない。分かっているのは毎月の小遣いの残金程度である。

福祉の仕事をしていながら、実は福祉の基盤・財源の事を何も把握していない。つまり私が遠いスウェーデンの地で一番強く学んだことは、「私は自分の国のことを何も知らないということ学んだ。」ということだった。

基本的仕組みや財源を知らないのに、高負担を行っている国のサービスを見て、素晴らしい、利用料が無料で羨ましいと思うのは感情であって、理論的ではないと知った。

この頃、両国の文化、国民性、求めるニーズなどの違いも、だんだんと分かりかけてきたので、社会福祉・医療を単一として見るのではなく、経済学・心理学など、いろいろと考慮し、多角的な視野と冷静な客観性を持って見学することで、今までとは違った見方ができるようになった。目からウロコが取れ、替わりにワンデーアキュビューを入れたような新鮮な視界といった感じである。

帰国間着は、もう少し学びたい気持ちもあったが、家族・友人などに会いたい気持ちと早く仕事に戻りクライアントに会いたい気持ちで満ちていた。

確かにスウェーデンの福祉から学ぶべき点、利用する国民の意識、建物内の色の使い方や理論的なサービスは参考となるポイントが数多かったのと同時に、福祉最先端の国にも予算確保の問題点や福祉従事者の賃金が低いなどの現実も知った。

また全てをスウェーデンと同じくしても、日本ではそぐわない事もあると理解できたし、その一方で、日本の福祉や国民の意識の改善点、両国の類似点、そして日本特有の繊細なサービスなども再発見できた。

アンビバレントな心境ではあるが、自分はやはり福祉の仕事が好きだと実感できたし、聖徳太子によって作られた「四箇院」等の歴史や現行の福祉制度をもっと知り、今度は日本の福祉をきちんと紹

介できるようになりたいと思い帰国した。

○ホストファミリーについて

最初のホストファミリーは Varbery のカールさん。麻酔科医。

研修より帰宅後、カールさんが勤めている緊急病院を案内していただきました。バイクで転倒し緊急処置室で処置されている患者を前に記念撮影？という表情をすればいいのか戸惑いましたが、今なら笑顔でピースくらいはできると思う。

翌日は、特別にメンバー全員でオペ室に入りロボットによる手術を見学させてもらえることになったので、一同手術着に着替え手術の Live 見学。これらはもう2度とない経験だと思います。

2番目は Boras のステファンさん。ケーブル会社（Nexans）の支社長。

ロータリー行事で夜の動物園見学と夕食会と一緒に参加しました。また Nexans は利益を従業員や街に還元しており、今回はサーカスを街に呼び、従業員やその家族約 1,200 人を無料で招待していました。そのサーカスに私も招待され、ステファンさんの掛け声により観衆全員から、「グリムサスの街によろこそ」と歓迎を受けました。

最後の夜は、ステファンさんと一緒にクリームブリュレを作り、ソルティーヌワインと一緒に堪能いたしました。

3番目は Alingsas のルナさん。住宅改修兼ペンキ店経営。

息子のニコラスさんは、高校生の時にロータリー交換留学生で仙台市に1年間留学していたこともありニコラスさんの部屋にはブッダのお面、ドリカムCD、日本語の本などがたくさんありました。現在はアメリカのアトランタ市で暮らしていますが、電話とスカイプを使い日本語で話をしました。

ルナさんのポルシェに乗せて頂き郊外をドライブ。百恵ちゃん歌のような真っ赤ではないものの人生初のポルシェでした。

4番目は Trollhattan のヤンさん。歯科用品等を販売。海外にも複数支店有。

ご自宅のサウナに入れてもらいました。スウェーデンでのサウナ体験はヤンさんお宅のみ。本当に気持ちが良い、今までの旅の疲れがとれました。

またヤンさんは日本で日本語の勉強をしていたこともあり日本語が少し話せ、日本文化も理解していました。そのため、お米に飢えていること理解してくれ、タイカレーやお寿司をご馳走してくれました。

5番目は Goteborg のクリスティーナさん。人材派遣会社にお勤め。（以前 GSE リーダーとしてルーマニア行った経験有。現在のヨーテボリ・バック RC の会長）

丘のような立派な庭もあり港に近い閑静な高級住宅地にお住まい。滞在初日は気持ちの良い初夏ということもありバーベキューを開いてくれました。

今夜パーティーに参加するからと鍵を預けられ一人でお留守番もしました。こんな私を信用しているのかね？と思いつつお留守番。フェアウェル・パーティーで、出かける時は、いつでも留守番行きますと約束しました。

ほぼ毎日近所の GSE 委員長のクリスターさんのお宅にお邪魔しみんなでバーベキューを頂きました。クリスターさんのヨットにメンバー全員乗せて頂き、初セイリングを楽しんだのは最高の思い出です。

最後は Molndal のクリスチャンさん。元会計士。

娘さんのレベッカさんは大学生で今年の夏に卒業予定。高校生の時にロータリーの交換留学生で京都府に留学をしていたこともあり、日本語がとても上手です。今までのあやふやな点や疑問点を聞き、おさらいができました。レベッカさんは、北海道に2回、奄美大島や屋久島、長崎県なども旅行した

ことがあり、日本人よりも日本に詳しく、各地の情報・観光名所をスウェーデン人に教えて頂きました。

兄の結婚式には自分で着物を着て出席したそうです。

○職業研修・文化研修について

在宅ケアシステム、病院、ケアホーム、障害者のデイアクティブ、児童保護、離島の医療や教育など、本当にさまざまなプログラム用意して下さり感謝しております。日本にはないシステムや違う角度から学ぶことができました。

職員の仕事量やバケーション以外に病気等のための休暇システムなども知る事ができました。しかしスウェーデンには、ボーナスや退職金制度がないことには、ちょっと驚きました。

一度、児童保護プログラム等のレクチャーを受ける時に日本人の通訳の方が付いて、細かい数字や機関等の詳しい説明を受けることができましたし、日本人の感性による質問・疑問も聞いて深く理解できました。研修中に、何回か日本の通訳の方を付けて頂けると大変ありがたいと思いました。

別れ際に通訳の方より、「リンゴとナシを比べてはいけない。」と言われました。確かにどちらとも果物ですが、そもそも物質は違います。しかしどちらともより土壌やニーズに合った品質改良は可能であると思います。今回の研修はまさにそれを学ぶことであったのではないかと思います。この出会いは偶然ではなく必然でした。

Vocational Program では希望通り、ろう学校を2ヶ所見学することができました。

1つ目の学校では、クラスに参加しスウェーデン手話を学び、一緒に給食も食べることができ本当に嬉しく、そして勉強となりました。お互いにコミュニケーションが取れた頃に終了でしたので時間がとても短かったです。2つ目の学校で、前回訪問した時に会ったろうあ者の方にお会いしました。この2つの学校で仕事をしているというような内容を手話で説明してくれました。世の中は意外と狭いと思います。

どの見学先でも基本的にレクチャーがメインであったため、利用者と関わりを持てる時間があまりありませんでした。確かに、職業によっては1日現場研修・実習は難しいかもしれませんが、職種や趣味等に応じて1～2日間の何かの体験実習やお泊りもできれば、もっとゆっくり、深くお互いを理解できると思いました。

各地の古城やいろいろな博物館・工場の見学、モニュメント巡り、ハイキングなどからスウェーデンの歴史、文化、風習、経済、国民性等を学ぶことができとても勉強になりました。歴史的建造物には、スロープやエレベーターの設置はやはり難しいですが、海水浴場には車椅子でも海に入れるようスロープやリフトが設置されているのには一同驚きました。

○その他

乗り継ぎを含め17時間以上かけ、スウェーデンに到着した時は夜の22時過ぎ。

GSE 委員長のクリスターさんや後半のヨーテボリ市でのホストファミリーのクリスティーナさんが出迎えに来て歓迎されましたが、気持ちは「アズスーンアズポスス」でベッドに入りたかった。しかし眠さをこらえホテルへ移動の車中、クリスティーナさんやメンバーと話をしていた内容を鮮明に覚えていたのですが、実は現実ではなかったことが4週間後に判明。多分、夢の中かパラレルワールドに行っていたのではと笑い話になりました。またベッド生活も20年振りということもあり、一度疲れている時に日本で畳&布団で寝ていると勘違いし思いっきり寝がえりした直後、ベッドから落ちってしまったこともありました。

滞在中、ご飯、だしの効いた蕎麦、ウォシュレットなど、懐かしい物がたくさんありましたが、一

番自分が飢えていたのは、手話を使えないことでした。言葉はメンバー同士で話せますが、手話の話し相手がいない。ちょっとした、同調でもいいので使いたくてしょうがありませんでしたし、無意識に手が動いておりました。

研修中頃、全員で協力しホストファミリーに日本食を作ってご馳走した事などは、本当に楽しい思い出です。食もそうですが、着物などを含めた日本文化等に皆さん大変興味を持たれていましたので、何かチームで披露できるパフォーマンスを準備しおけば良かったと思いました。

○最後に

4月30日から5月30日までのスウェーデン研修や研修に向けての準備期間中、本当に多くの方々と出会い、支えられ、親切にして頂き、いろいろな事を楽しんで経験し、無事終了することができました。皆様本当にありがとうございました。

出発前、特に知らせていなかったのですが、スウェーデンより「こそ〜」と、出していたつもののウェブ（報告）を、毎回職場の人達が見ていてくれた事は、恥ずかしいやら、嬉しいやら、サプライズでしたが、何より心配し旅の様子をチェックしてくれていた事に感謝の気持ちでいっぱいです。

こういうさり気ない同僚の気遣い、ロータリアンの皆様より頂いた沢山の優しさ、チームリーダーやメンバーの温かさを忘れず、そしてこの研修で学んだ全てのことを活用して、本日も福祉の現場で元気に働いております。

●はじめに

今、目の前に1冊のノートとデジタルカメラがある。ノートの表紙はコーヒーやサラダのドレッシングと思われるシミがあり、持ち歩く際に丸めたため形も悪く、表紙を開くと自分で書いたにも関わらず所々読み取れない走り書きの文字でほぼ1冊うめられ、各ページには赤色のボールペンで大きく「これ重要!」、「(日本に) 帰国後調べること!!」、と書かれている。

デジタルカメラもいつも持ち歩き、ホストファミリーやスウェーデンの自然、病院や高齢者施設などを毎日、毎日撮影していた。画像をみるだけでその時の記憶、におい、味、音などがよみがえってくる。途中、不注意でカメラを足元に落としてしまい、それからというもの電源が入らないなどの不具合がおきるようになったのだが、この色あせたノートそして調子の悪いカメラはこの1ヶ月の間に私にとってかけがえのない品物となった。

この相棒を手元において1ヶ月を振りかえっていきたいと思う。

●ボルバリー（5月3日～5日）

最初の訪問地であるボルバリーは、スパ施設やホテルが建ち並びリゾート地。スパの人気の秘密は海に面した立地をいかし海水を取り入れているところにある。特に夏季は、スウェーデン全土やヨーロッパ各地からの観光客で賑わうとのこと。海岸部には建設途中のサマーハウスが数多くあり、町の発展を予感させた。

4月にGSEプログラムでスウェーデンから北海道を訪れたメンバーの1人、サラさんはこの地の観光情報センターで勤務している。私たちは町の中心部にある彼女の勤務先を訪問し、ボルバリーの海の色に似た薄水色の制服を着て働く彼女を目にすることができた。「夏季は朝から晩まで多くの観光客から色んな問い合わせが殺到して本当に忙しいの。」少し困った顔をして語る彼女であったが、私たちに仕事の内容や町の魅力を目をきらきらさせて語るその姿は仕事に対する充実感にあふれているように見えた。

さて誤解を招く表現かもしれないが、私たちはこの地で「フィーカ」の「洗礼」を受けた。「フィーカ」、どことなく気品漂うこの言葉に私たちメンバーは時に悩まされた。

「では、フィーカにしましょう!」、1ヶ月間、職業研修で訪れた施設では必ずといっていいほどこの言葉が聞かれた。「フィーカ」とは「コーヒブレイク」を意味し、職場で午前10時や午後3時の時間帯になると仕事の手をとめた同僚たちがコーヒー、お茶そしてお菓子、サンドイッチなどを持ち寄り、おしゃべりすることをいう。

「フィーカ」があることで職員から一方的に説明を受けるという研修にはならず、飲みながら食べながら和やかな雰囲気でお互いがうちとけて、スウェーデンと日本の医療福祉について意見交換することもできた。しかしその一方で一日に数か所の施設を回るような日には、施設ごとにお菓子やパン、サンドイッチなどが山のように用意されており、「どうぞ召し上がれ」と笑顔ですすめてくださる職員さん、目の前には大きな菓子パンの山、パンは大好物だが視線を落とせば今にも悲鳴をあげそうな私のおなか、そんな思いもよらない駆け引きがはじまり、この習慣に慣れていなかったころは相手の話もうわの空の時があったほどだった。

●ボロース（5月5日～9日）

ボルバリーから電車でボロースに移動、ここボロースは人口 10 万人、織物や衣料品産業、小売業で栄えている。産業革命期に活躍し現在も現役の織機など歴史的な機器を展示している博物館や街の各所にある現代的なモニュメントを見て回り、ボロースの過去と現在にふれることができた。また「Linnémarschen」（リンネマルシェン）というウォーキング大会にそれぞれのホストファミリーとともに参加し、丸山リーダーを含む男性陣は 14 キロ、女性陣は 9 キロの道のりを歩いた。植物学者のリンネの名前を冠した大会だけあって、ウォーキングコースは花や草木であふれていた。天候も良く、ホストファミリーとの会話も弾み、あとに残ったのは心地よい疲れと完歩記念に主催者からいただいたゴールドメダルであった。

さて、ここボロースでは地元ロータリークラブの例会に 2 回（そのうち 1 回は朝 7 時からの開催）招かれた。研修期間中、10 クラブの例会でプレゼンテーション（以下、プレゼン）をさせていただいた。特に最初に訪れたボルバリーでははじめてのプレゼンは記憶に残っている。機器接続もうまくいかず、緊張のあまり早口になり、言おうとしていたことも飛んで言えずじまい。おそらく内容は伝わらなかったと思うが、例会後多くの方から「良かったよ!」、「（そらぶち）キッズキャンプは一年中行われているのか」など話した内容についての質問までいただいた。2 回、3 回と例会やプレゼン中の雰囲気を感じ、各メンバーともに端々に笑いをとることのできる余裕が生まれ、これまでの研修で得たことなどを織り交ぜながら自分の本当に伝えたいことを話すことができるようになった。

日本を発つ前、GSE 委員のトーキル先生から、プレゼンの最中に聴衆から質問がくるだろうから、それに答えられるだけの材料は持っていたほうが良いというニュアンスの言葉をいただいた。人が話しているときに割って入るように質問をしてくるものだろうかと内心思っていたが、実際、何度も質問が投げかけられた。しかも多くが予期せぬ箇所についての質問であった。茶々を入れるような感じでは決してなく、まるで 2 人で話しているときのような自然な流れの中での質問であったが、慌てた私を見かねて他のメンバーが答えてくれることもしばしばあった。こういった経験が私たちを大きくしたのだと思う。

●アリングソース（5月9日～13日）

ボロースを後にした私たちが次に向かったのは、人口 36,000 人の町、アリングソースである。スウェーデン第 2 の都市であるヨーテボリや国際空港にほど近く、将来的にベッドタウンとして人口増を目指しているようだ。また有名なカフェショップが多く、私もロータリアンの方にすすめられたオープンテラスのカフェに緊張しながら一人で立ち寄り、今思えば恥ずかしいが、その場に溶け込もうと読めもしないスウェーデン語の新聞を片手にパンとコーヒーをおいしくいただいた。

ここアリングソースのホストファミリーのお父さんは、その道では有名なバーベキューのチャンピオン！料理の腕前はさすがで朝食のスクランブルエッグから味付けにこだわる気のいれようであった。

今回の研修では 6 ヶ所のホストファミリー宅におじゃまさせていただいた。バーベキューチャンピオンのように個性的な家族ばかりで、ホストファミリーとの思い出だけとっても何時間も語れそうである。それは私だけでなく、今でもリーダーとメンバーで話をするとき必ず自分たちのホストファミリー自慢が始まる。「うちのママの料理はとておいしかった」とか「うちの家にはシークレットルームがあって、そこは大きなワインセラーになっていた。」など話がつきない。

忘れられない思い出、忘れられない言葉もある。「いつ帰って来てもいいようにヒロシの部屋は空けておくよ。」あるホストファミリー宅を後にする際に目を少し赤くしたお父さんがかけてくれた言葉だ。

私もその気持ちが本当にうれしくて、にじんでよく見えないお父さんと固い握手を交わした。ホテル暮らしでは決してあじわうことのできない、かけがいのない出会いの連続であり、目に見えない宝物をたくさん持ち帰ることができた。

ホストファミリーの皆様、ご迷惑もたくさんおかけしたことと思います。本当にありがとうございました。

●3-stad（5月13日～19日）

3-stadとはベネシボリ、トロハッタン、ウデバラの3市を意味する。巨大なヴェーネルン湖からヨーテボリへと注ぐイェータ川沿いにあるのがベネシボリとトロハッタン。それぞれ順にリゾート地と工業地として栄える。海岸部にあるウデバラはその両方の性質を持っていた。ボルボ、サーブといった自動車はこの地域で製造されている。お会いしたロータリアンの中にも両社どちらかに勤務されている方が多く「やあ、ボルボの街へようこそ！SUZUKI（スズキ）？偵察に来たのか？」と私の名前を見るなりご当地ジョークが飛び出した。

ここトロハッタンには100年以上前に建設された水力発電所が今も現役で、スウェーデン人の生活を支えている。「10年たっても町並みはほとんど変わらない。」、スウェーデン生活の長い日本人にお会いした際の言葉であるが、彼が言うように多くの住居や建物の外観は築50年～100年以上経過しているように見えるが、一歩中に入ると現代的なデザインが施してある。これは古き物を大切にするというお国柄と突出した裕福な世帯は非常に少ないという現状と、そして地震がほとんど起きないため可能になっているそうである。

長く厳しい冬を終えた5月、住宅街のあちこちで屋根や壁を補修している光景を見た。きっと何世代も受け継がれ大切に大切にされている家なのであろう。あたたかな思いをつなぐリレーを見た気がした。

●ヨーテボリ（4月30日～5月3日、5月19日～25日）

私たちにとってスウェーデンの玄関口がこのヨーテボリ。国内で2番目に大きいだけあり、人も車もお店も他の町とは比べ物にならない数である。3-stadからヨーテボリに入った時には思わず懐かしの場所に帰ってきたという気持ちになった。

私は職業研修についてひとつ不安があった。現在、医療福祉の相談員（ソーシャルワーカー）として働いており、主な対象はパーキンソン病やベッチェット病といった難病をかかえる患者さんや家族である。本研修の目的のひとつとして私は福祉国家として名高いスウェーデンにおいて難病患者・家族に対しどのような対策が講じられているのかを知りたいというものであった。

しかし難病というあまり一般でない分野の研修先はあるのだろうかという不安がよぎった。私の目的や希望自体もあいまいなところがあり現地にうまく伝わっていないことも分かっていて。各地の研修では全てが難病に関連するというものではなかったが、石丸さんをはじめとするGSE委員会、現地の委員会そしてコーディネーターの方々のご尽力で本当に充実した研修となった。

特にヨーテボリにあるサーグレンスカ病院内希少難病情報センターそして難病や障害を抱える子どもの教育・療養機関であるオーグレンスカの2機関では私と同じ職種の方と出会うことができた。医療費、福祉サービスの違いなど両国の難病対策について話をし、多くの資料も提供いただいた。お互いの相談を受ける上での悩み、喜びを共有することもでき、遠く感じていた日本とスウェーデンがとても近く感じられた瞬間だった。

●モルダル（5月25日～29日）

最終研修地であるモルダルはヨーテボリの郊外に位置する。350年前から最近まで製紙業が栄えていたが科学・情報技術系の産業にとってかわっている。モルダルでは世界的な製薬企業であるアストラゼネカを訪問、取り組みについておうかがいした。

日本では高額な治療費・薬剤費を払うような難病の患者さんであってもスウェーデンでは基本的に薬剤費は無料、医療費も10,000円程度の上限額が設定されており、それを超えれば無料となる。この背景には高い税金の負担があるのだが、国民は高額な税金を払うことに対して不満を感じているようには思えなかった。おそらく払った税金が国民の医療・福祉に使われるなどその使い道が誰の目にも明らかであること、国政に不満があれば声を上げ議論することができることが分かっているかであろう。

スウェーデンで過去に使われていた中学生の教科書（社会科）に『あなた自身の社会』という名のものがある。内容はスウェーデンに生きる「あなた」に偽りなくありのままの国の実情（麻薬・アルコール・いじめ問題など）を示し単に否定するのではなく何がだめなのかを考えるように促している。また、ひとりひとりに役割があること、国を動かす力があることを示している。

私たちの住む日本にスウェーデンモデル（高福祉高負担）が適応するかどうかは賛否両論あるが、私たち国民が信頼できるような国になることを期待し、そうなるように働きかけていきたいと考えている。

●おわりに

今回の研修では日本、スウェーデン両国のGSE委員会の皆様に研修前後にわたって私たちメンバーを親身になって支えていただいた。研修を通して出会うことのできたすべての皆様に感謝し、この経験を胸に職場、社会に貢献できるよう努力することを誓い、報告といたします。ありがとうございました。

私はこの度、札幌東ロータリークラブからご推薦を頂き、GSE プログラムに参加させて頂きました羽田野真寿美と申します。

私は現在、高齢者施設で介護職員として勤務しており、福祉先進国であるスウェーデンで1ヶ月の研修を受けることは職業人として素晴らしい経験をする事ができたと思いますし、一人の人間としても異なる文化に触れる事ができたことはとても有意義な経験でした。

次に9日から13日まで私たちが過ごした Alingsås という町についてお話したいと思います。アリングソースはヨーテボリから50km離れた内陸の小さな町で人口は約36,000人です。町の中心には石畳のストリートが広がり、たくさんのカフェやハンドクラフトの雑貨店が軒を連ねています。また、アリングソースではたくさんの美しい湖があり釣りやカヌー、ハイキングなどのアウトドアを楽しむことができます。

アリングソースには歴史のある建物や鉄道が保存されています。この建物はアリングソース郊外にある16世紀の古いお城です。

アリングソースには年齢を問わず楽しめるお祭りがあります。まず、4月23日から25日にはジャズフェスティバル、6月17日から20日はポテトフェスティバル、アリングソースはスウェーデンで最初にジャガイモを栽培した地だそうです。そして、9月24日から10月31日まではアリングソースの町が美しくライトアップされる光のフェスティバルが開催され、75,000人の人々が各地から訪れます。

では、早速ですが私が派遣されたスウェーデンの簡単な概要です。

これらの写真は私が見たスウェーデンの自然です。

先ほどのスライドで表示したように国土の65.9%は森林(針葉樹林)に覆われており私たちが訪問したR12360地区も至る所に緑がありました。また湖や沼もたくさんありスウェーデンは自然に恵まれた美しい国でした。

次にスウェーデンの食べ物についてお話したいと思います。これらの写真は私が食べたり、スーパーで見た食べ物です。スウェーデンでは朝食はパンやシリアルが主食で簡単に済ませますが、10時にはフィーカというおやつがあります。昼食と夕食は日本と同じような感じですが、全体的に料理にはあまり時間をかけないという印象を受けました。スウェーデンでは食品には12.5パーセントの税金が課せられますが、一つ一つの量が多いのであまり高いとは感じませんでした。

私は先ほどもお話ししましたが高齢者施設に勤務しており、福祉先進国と言われるスウェーデンでの研修は本当に貴重な経験でした。ここからは私が見て学んだスウェーデンの高齢者福祉についてお話したいと思います。

まず、スウェーデンの高齢者の施設ケアについてお話したいと思います。1992年のエーデル改革により①自立して生活できる高齢者対象、②ケアが必要な高齢者対象、③医療施設であり通過施設であった、④ケアが必要な人が少人数で住むことができる介護・居住形態などの施設は全て「特別な住居」と呼ばれるようになり法律上区別されることはなくなりました。

これにより入居者の介護度に応じて施設を変える制度から入居者が住み続けられる制度に変わりました。

これらの写真は私が訪問した特別な住居の様子です。スウェーデンでは高齢者の特別な住居をいくつか訪問しましたが、ほとんどの居室に介助者の身体的負担を軽減できるよう福祉用具(移乗用のリフトや起き上がりの為の自助具)が設置されていました。また、ほとんどの居室は個室でありシャワ

ーとトイレが備え付けられており、認知症の人の居室では危険なため使用できないようにはなっていませんが、簡易キッチンが設置されていました。これらの施設は高齢者自身のためだけでなく労働環境法において、スタッフが機能的に働けるだけの広さと構造をもつことが要求されています。

また、認知症ケアを行っている特別な住居にはユニットの出入り口には鍵がかかっており、入所者を守るために施錠しているとのことでした。個人を守るための拘束と法的に違反する強制措置についてはもっと議論がなされるべきだと感じました。

次にスウェーデンの施設の在り方についてお話したいと思います。スウェーデンの高齢者施設は地域に開かれています。スウェーデンではボランティアの人たちや子どもたちが高齢者と過ごすこと、本を読みながら施設に行くこと、食事をするために併設しているレストランに行くことは稀なことではありませんでした。施設で暮らしていても社会の中で生きているということはスウェーデンでも日本でも変わりはありません。日本でも施設は以前と比べると地域に開かれた施設に変わりつつありますが、入居者のプライバシーを保護しつつ他者との交流が図れるよう発展していかなければならないと思いました。

次にスウェーデンの高齢者の在宅ケアについてお話したいと思います。私がとても驚いたことはスウェーデンでは高齢者の在宅生活を支える為に様々な補助器具が開発されていることでした。

右下は壁掛け時計ですが日にち、時間、曜日とともに一日のスケジュールを表示し認知症が日時感覚を持てるように工夫されています。

真ん中下の写真は誤薬を防ぐツールです。決まった時間になると薬の箱が開きます。

また、左の写真はアラームですが高齢者が緊急時の際に連絡が取ることができます。

右上の写真は私が訪問した施設の様子ですが、パソコンで利用者の顔を見ながら話をして体調を確認することもあるとのこと、安心して在宅生活を継続できるような仕組みがスウェーデンでは充実していました。これらのツールは必要であると介護ニーズ認定者が決定すれば在宅の高齢者は無料で利用できるとのことでした。

これからは私が各地で訪れた高齢者施設を紹介したいと思います。Varberg の認知症の人たちが利用する施設では色彩のコントラストの強化やシンボルを使うことをケアに取り入れており参考になりました。認知症の人たちにとって物理的環境を明確化することは認識能力を維持するためには重要な要素です。

Boras では介護を学ぶ学生たちの現場研修の場でもある施設を訪問しました。施設のスタッフと教員が密に連携しているため、仕事に対する悩みや不安を軽減できているとのことでした。彼らは3年間介護の勉強をし、ほとんどの学生が卒業後は介護の仕事に就くとのことですが、現在の介護職員の平均年齢が高いこと、また高齢化が進むため10年後は介護職員が不足するだろうと市の職員の方は話していました。

これはボロースのショートスティ用の居室です。スウェーデンでは特別な住居における一時滞在をショートスティと呼んでおり、リハビリや家族の介護負担軽減、病院退院後の病状の安定、特別な住居への入所待ちのために使われます。滞在期間の上限はなくリハビリの為に使うので在宅の人のみの制度ではありません。また、一時滞在である為家具は備え付けです。

ベネシボリの施設では職員のためのジム設備がありました。しかし、スウェーデンでも高齢者福祉の財源を削減しようとする動きがあり、色々とセーブしなければならないことがあるとのこと、このような職員のための設備は訪問した施設ではここだけでした。

高齢者ケアでは介護者が利用者を理解することは重要なことです。

ヨーテボリの高齢者施設では高齢者がどのような世界で生活しているのかを職員が視界を悪くした水中眼鏡や触覚を遮る厚いゴム手袋、耳栓を着用して体験する研修を行っていました。これは身近な

ものを利用して高齢者体験ができるので、今後の職場研修で是非取り入れてもらいたいと思いました。

ここでは高齢者施設と併設したデイケア施設を訪問しました。施設には認知症の方のアクティビティとしてメモリーボックスという高齢者の方の子ども時代や働き盛りだったころを再現した家がありました。ここにあるものが認知症の人の過去の出来事を思い出させ、回想を語る体験はそれに耳を傾ける他者がいることで心理的安定を図ることができます。回想法は日本の施設でも取り入れているところはたくさんありますが、スケールの大きさに驚きました。

GSEプログラムに参加し、4週間のスウェーデン滞在で得たものは言葉では言い尽くせないほどの貴重な経験でした。まず、福祉に携わるものとして福祉先進国で様々な施設を見学できたことを今後の職業に生かしていきたいと思えますし、このような機会を与えられたことに非常に感謝しています。そして、多くの人びととの出会いから異なる文化を学び、刺激を受けることができました。これは、今後の私の人生を変える素晴らしい出来事になるように思います。

最後に RI2360 地区、RI2510 地区、ホストファミリーの皆様、GSE リーダー、メンバー、この研修に携わった多くの皆様の協力には本当に感謝しております。ありがとうございました。

スウェーデンは、ご存知の通り広い、自然の豊かな国土に恵まれています。そこに暮らすスウェーデン国民の数は、決して多くはなく、人口密度は実に日本の13分の1です。

そんな自然と国土に恵まれたスウェーデンには、至る所に散歩道があります。住宅街の中にも必ず小さな森があり、人々はいつでも散歩に行く事ができ、朝、夕方、そして土日には、多くの人が自然の中でウォーキングやジョギングを楽しんでいます。この環境が、スウェーデン人を自然に親しませているのだと思います。

もちろん、冬になると日照時間が極端に短くなるため、春～夏にかけては多くのスウェーデン人が太陽の光を求めている事も原因の一つと言えます。

また、スカンジナビア各国には自然享受権があり、民家のすぐそばでなければいつでも、誰でも自然に親しむ事を権利として認めている法律があります。そのため、子供から大人までキノコ狩りやブルーベリー摘みなどを通して、自然からの恵みを体感する事ができます。これもまた、自然に親しみ、自然を大切にしようという意識の維持に一役買っているのではないかと思います。

今回私たちはたくさんのストファミリーに出会いました。ホテルに滞在するのではなく、ホームステイする事で、スウェーデンと日本の文化の違いを体感しました。

まず、第一に食事です。火を通して調理する機会が極端に少ないと感じました。朝食は冷蔵庫から出して並べるだけなので、5分かかりません。私は和食大好き人間なので、朝食時は全く食欲がわかず、苦勞しました。ディナーについても、同様に手間ひまはかかっているため、美食通の私にはスウェーデンの食生活は厳しかったです。

今回の GSE で私はロータリーの輪を強く感じました。世界中に友達がいるというのは自分の世界が広がるのと同じ事。スウェーデンでも、友達が友達を呼び、いいとも状態でした。ここスウェーデンでは、なんと滝川市のスウェーデンハウスの立ち上げに携わったカールさんと出会いました。カールさんは日本文化の良さを私たちよりも知っていて、たくさんの事を教えてくれました。こんな出会いがあるのもロータリーならでは、です。

今回、スウェーデン GSE チームからも「若者とのふれあいが少なく残念だった」という意見がありました。そこで私はボロスという町で若者の過ごし方を視察する事にしました。国は違えど若者の興味は同じ。日本に比べて大きな違いと言えば、みんな就職や大学進学なんて二の次で、高校を卒業したらまずは1年間世界中を仕事しながら旅して、ゆっくり将来について決める。そういうスタンスなので、とても興味の範囲、知識の範囲が広がったところでしょうか。

そして、日本人でしかも10歳くらい年上の私の面倒をよく見てくれて、退屈しないように気を使ってくれていました。若者でも他者とのつながりを大切にする姿勢が見受けられ、これがスウェーデンの国民性の一つなのではないかと感じました。

スウェーデンでのロータリアンは皆さん気さくで、例会でも何でもラフな姿で登場し、人の発表中も茶々を入れたり突然質問がたら乱入してきたりととても自由奔放でした。しかし、それらには私たちのプレゼンテーションをより興味深い物にしようという優しい気遣いであって、本当に彼らに助けられました。

スウェーデンの人々の生活は基本的に質素だと感じました。着るものや身につける物にあまりお金をかけず、ほとんどの人が100年～70年以上前に建てられた物に修繕して住んでいます。都会ではアパートもありますが、それらも100年以上前に建てられたビルです。日本でたびたび見かける新築マンションや新築ビル工事などはほとんどまじりにしませんでした。また、シャワーに使用するお

湯も燃料費の安い時間帯にためておき、使いすぎるとお湯が出なくなります。水です。水によるシャワーを何度か体験しましたが、スウェーデンの多くの人が「なくなっちゃったんだから仕方がない」というスタンスでまったく気にしていません。

先に述べたように食事也非常に質素でエンゲル係数が極端に低いです。私がこの滞在で学んだのは、スウェーデンの人々は身の丈にあった生活をして、休暇等で自分の時間を楽しむ時は存分に楽しむという質の高い生活をしているという事です。

最後にスウェーデンの医療福祉制度について学んだ事をお伝えしたいです。

まずは高負担高福祉というスウェーデンの福祉政策についてです。スウェーデンの消費税率は皆さんもご存知の通り、食品、書籍をのぞいて 25%程度に上ります。また、企業が雇用者に対して支払う社会保障税率も非常に高いそうです。その税収入は何に使われているのでしょうか。

スウェーデンでは役割分担が非常に明確です。スウェーデンの行政区分は州、県、コミューンに分けられます。病院は 90%が国営で、医療に関しては州が責任を負っています。県は税収を県独自の采配によって分配できますが、老人医療、教育、障害者福祉の3点に最もお金をかけなければいけないという法律があり、実際に私たちの行った県では、教育 32%、老人介護 29%保育園等の整備 16%などと、社会福祉に最も税金を使用していました。日本では市町村も病院を経営しており、それらの赤字率がそれぞれの市町村の財政を大きく圧迫しています。その結果、教育費、老人介護、障害者福祉などの社会保障制度に対する支出が確実に削減されています。

私はこのスウェーデンの明確な役割分担の仕組みが日本との大きな違いだと感じました。

次に低所得者などの社会的弱者に対するスタンスですが、スウェーデンのホスピスで研修した際に、「このホスピスにはずっと路上生活をして、ドラッグまみれになっていた人も多い」と聞かされました。かれらは公費で医療を受け、公費でホスピスでケアを受けています。日本ではあまり考えられません。スウェーデンでは、仕事をせず、病気を持っている人が一番豊かな生活ができると思えるほど、社会的弱者に対する社会保障が手厚くなっています。この後、私は50代働き盛りの男性に「一生懸命働いている人の中には、このシステムを嫌がる人もいるのではないか」と質問しました。結果は「そういう人はいるかもしれないが、多くのスウェーデン人が本来あるべき良いシステムだと思っている」と話してくれました。どんな人も、環境や教育、生まれ持ったハンディなどで立場が逆転する可能性はあり、それらによって救われない人生を歩む事はフェアではないという考えを自然に持っているのだと感じました。

最後に雇用促進についてです。まず、このような高福祉制度を維持するためには、十分な税収とマンパワーが必要です。日本では、介護福祉士の不足が訴えられています。スウェーデンでは、3年教育の正看護師の他に、1年から2年程度でなれるアシスタントナースを多用しています。彼らが訪問看護や訪問介護の重要な人材となっていて、一日に7回の訪問などが可能になっています。また、スウェーデンには障害者に対して、日本で言うケアマネジャー的な人物が必要と判断すれば、アシスタントをつける事ができます。

このアシスタントは特別な教育は不要で、事前に公的な履歴書で犯罪行為等の有無を調べる等の簡単な手続きで雇用できます。これらのアシスタントナースや障害者アシスタントは、一定量の給料を得る事ができ、税を支払う事ができます。そのことで、国は税収を確保でき、雇用も促進できるという極めて合理的なシステムになっています。

私は病院で看護師として働いています。日々の看護に必死で、大学時代に学んだ日本の医療福祉制度はもうすでに古い物となっていますが、新たに勉強し直す時間がないまま通り過ぎていました。しかし、現場では多くの患者が在院日数の短縮化に伴い退院を余儀なくされ、自宅では家族が大きな負担を感じながら彼らを介護しています。

老老介護、老人の独居などは当たりまえで、入院してくる患者さんも身寄りのない方や介護の担い手となれるような近親者がいない場合が非常に多くなっています。しかし、スウェーデンでは日本以上に病床数の削減が進み、前立腺癌の手術で翌日退院、脳出血等の脳血管系手術後でも1週間で自宅へ退院します。退院後彼らはどうなるのでしょうか。スウェーデンでは、病床削減の前にしっかりと在宅支援制度を整備していました。その結果、自宅退院前に医師、看護師、患者、家族で自宅で必要となりうる支援を検討し、事前にコミュニケーションに連絡を入れます。連絡を受けたコミュニケーションは医師の指示に沿って必要な支援を整備し、退院したその日から各種支援が受けられる仕組みとなっています。

これらの支援にかかる費用は基本的に公的負担でまかなわれ、収入によって自己負担額が決まります。こうすることで、人々は住み慣れた家で安心して過ごす事ができ、家族は仕事と介護の両立が可能となります。

また、特筆すべきは、介護をしている家族に対して「精神的、身体的支援をしなければならない」という法律があるという事です。介護は非常に精神的、身体的負担の大きい物です。そんな家族が少しでも負担を軽減できるように定期的に家族ケアを行ない、様々なリクリエーションやマッサージなどを施します。また、必要時は被介護者のショートステイも計画します。

日本でも少しずつ介護者のサークル活動などが増えてきています。もちろん私たち看護師も「看護の範囲は患者のみならず家族、近親者、パートナー、その患者を取り巻く全ての物に対して向けられるべきもの」と考え、家族看護を行なっています。しかし、これらは全て個人の力量に任せられており、制度として成り立っている事ではありません。この事から、スウェーデンという国が、如何に真剣に医療福祉制度を考えているか。さらに、その考えが長期的な視野に立っているという事お分かりいただけると幸いです。

もちろん、日本の良いところも沢山あります。公的な健康診断が普及し早期診断、早期治療が可能なこの日本は、健康診断の義務がないスウェーデンに比べて、健康寿命の延長に役立っていると思います。また、医師、病院の多い日本では、簡単に一定水準の診断、治療が受けられます。国民皆保険制度も世界に誇るべき制度だと思います。

しかし、今日本は過渡期にあります。今後私たちが安心して暮らして行くために、どのような政策、生活をして行けば良いのでしょうか。それらのヒントがこのスウェーデン GSE 派遣で沢山得られたと思います。



北広島クラッセホテルにて (4月2日)



GSE 委員会との食事会 (4月16日)



サンディエゴでの出会い



GSE 委員会との食事会 (4月16日)



千歳空港到着
(4月2日)



サラの誕生日 (4月15日)



千歳空港お出迎え (4月2日)



歓迎会でのプレゼント (4月3日)



歓迎会 (4月3日)

第1週の思い出（第7グループ）



第2週の思い出 (第1・2グループ)



第3週の思い出（第9グループ）



第4週の思い出（第5グループ）





壮行会・送別会（4月29日）



壮行会・送別会（4月29日）



反省会（4月30日）



カトリーヌ・リーダーと宮崎委員



サラ



カミラ



カタリーナ



デニス



壮行会・送別会（4月29日）



壮行会・送別会（4月29日）

派遣チームの思い出



派遣チームの思い出



編集後記

2009-2010年度の交換事業のきっかけは2008年の秋、GSE委員会において、これまで14回の交換事業では行ったことの無い、欧州における地区との接点を探そうということから始まった。また、重点的GSEにも挑戦してみることにし、医療・介護の分野において先進的な地域との交換を検討することとなった。

手始めとして、デンマークの各地区に連絡を取ったが、いずれも既に相手地区が決定しているか、GSE活動を行っていないかで、不振に終わり、次に、スウェーデンの地区に連絡を入れたところ、2360地区よりその可能性がある旨の回答を頂き、早速話を進めることとなった。

当初は、こちらの地区大会および相手地区の地区大会に合わせた時期の交換を考えていたが、相手地区が、地区大会にこだわらない時期での交換の申し出があり、こちらのGSE委員会として、何とか時期を合わせられないかやり取りを行っていたが、2009年1月サンディエゴにおいて、当地区の渡邊ガバナーエレクトと相手地区、エバ・パーソンガバナーエレクトが直接会い、日程が2010年4月の受入、2010年5月の派遣と決定された。

これを受けて、まず派遣チームリーダーに奥貫一之氏(札幌東RC)を選任し、3月に団員の募集を開始した。重点的GSEの初めての試みということで、応募者がどのような状況になるか、気をもんだが、最終的にクラブ推薦を正式に受けた申し込みが14名となり、選考会を開催する運びとなった。

応募者はいずれも意欲に溢れた若者で、選考手続きは大変困難であったが、14名の中から6名の候補者を選考し、6月にその中から4名の派遣団員と2名の補欠団員を決めることとした。

その後、奥貫リーダーの献身的な研修が開始され、スウェーデンについての勉強が行われ6月に最終的な選考が行われ4名が決定した。

2010年2月に奥貫リーダーが仕事の関係で派遣に加わることが困難ということが判明し、急遽、丸山淳士パストガバナーにチームリーダーをお願いすることとなったのは誠に残念なことではあったが、丸山リーダーの卓越した才能により無事、派遣活動が終えられたことは望外の喜びである。

また、受入に関して2009年10月中には2360地区からの団員が決定する旨伝えられていたが、最終的に団員が伝えられたのは2010年1月のことであった。相手地区においてもチームリーダーの交替があり、受け入れ準備の具体的な計画がぎりぎりまで立てられず、お世話をいただいたコーディネーターの皆様には、本当にご苦労をお掛けし、感謝の念に耐えない。

双方の派遣が終了し、4ヶ月が経ち、派遣団員たちがそれぞれ素晴らしい記憶を残し今後の人生の糧とされることを大いに期待し、ロータリーにおけるGSE活動の意義を再度認識した次第である。(石丸)

2010年9月

2009-2010年度 地区GSE委員会

沼 舘 栞 委員長(札幌清田RC)
石 丸 修太郎 副委員長(札幌西RC)
岡 崎 芳 明 委員(小樽南RC)
金 坂 和 正 委員(札幌真駒内RC)
トーキル・クリステンセン 委員(札幌南RC)
泉 敬 止 委員(滝川RC)
馬 場 信 吾 委員(北広島RC)
遠 藤 友紀雄 委員(小樽RC)
宮 崎 義 昭 委員(札幌西RC)
犬 嶋 清 幸 委員(札幌東RC)

